http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2012/

SOFTWARE JAPAN 2012

OFFICIAL GUIDE

CIO 最高情報責任者 は決断する

開催 2012年2月1日（水） ［受付開始 9：00］ 9：30-17：50

会場 タワーホール船堀（東京・江戸川区）

時間

メインセッション［会場：5F 大ホール］

〔 9：30〜 9：35〕 Opening ／ ITフォーラム紹介
〔 9：35〜12：45〕 第1セッション「キーノートセッション」
〔13：45〜15：30〕 第2セッション「パネルセッション」
〔15：45〜17：45〕 第3セッション「ザ・ジャパンソフトウエアセッション」
〔17：45〜17：50〕 Closing ／ デジタルプラクティスアワード表彰式

ITフォーラムセッション［会場：2F 各会場］

〔13：30〜17：45〕 サービスサイエンスフォーラム×社団法人 日本情報システム・ユーザ協会×独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター（2F 桃源）
〔13：30〜15：30〕 コンタクトセンターフォーラム（2F 福寿）
ITダイバーシティフォーラム（2F 平安）
高度IT人材育成フォーラム（2F 瑞雲）
先端IT活用推進コンソーシアム（2F 蓬莱）
〔15：45〜17：45〕 独立行政法人情報処理推進機構 ソフトウエア・エンジニアリングセンター（2F 平安）
一般社団法人情報サービス産業協会（2F 瑞雲）
一般社団法人電子情報技術産業協会（2F 蓬莱）

ITフォーラム展示［会場：5F 大ホール前］

〔 9：30〜17：30〕 ユニバーサルデザイン協創フォーラム

会場 タワーホール船堀［東京都江戸川区船堀4-1-1］

主催 一般社団法人 情報処理学会

協賛 一般社団法人 情報サービス産業協会，社団法人 日本情報システム・ユーザ協会，一般社団法人 電子情報技術産業協会，先端IT活用推進コンソーシアム，社団法人 電子情報通信学会，一般社団法人 日本ソフトウェア科学会，国際CIO学会

後援 文部科学省，経済産業省，総務省，独立行政法人 情報処理推進機構

SPONSORS

株式会社日立製作所
HITACHI Inspire the Next

富士フイルム株式会社
FUJIFILM 富士フイルム株式会社 富士フイルム ソフトウエア株式会社

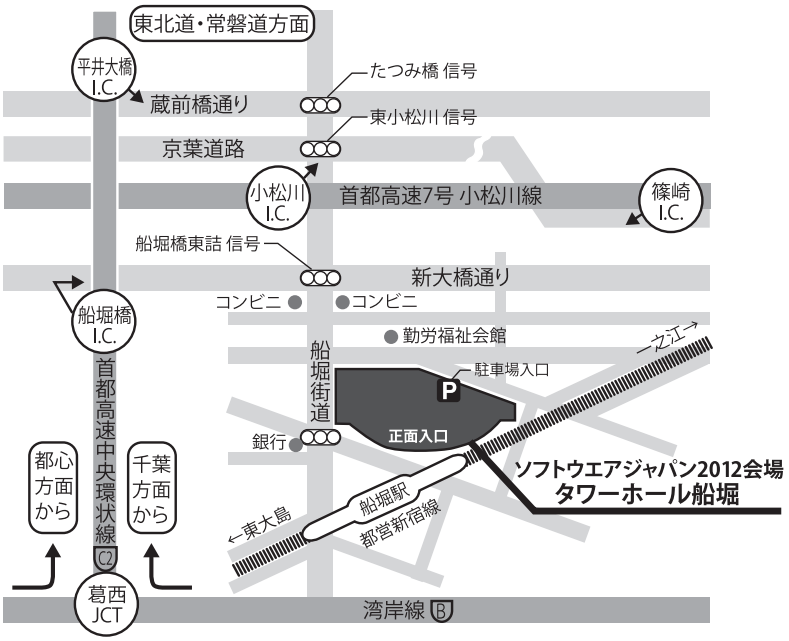
富士通株式会社
FUJITSU shaping tomorrow with you

日本電気株式会社
NEC

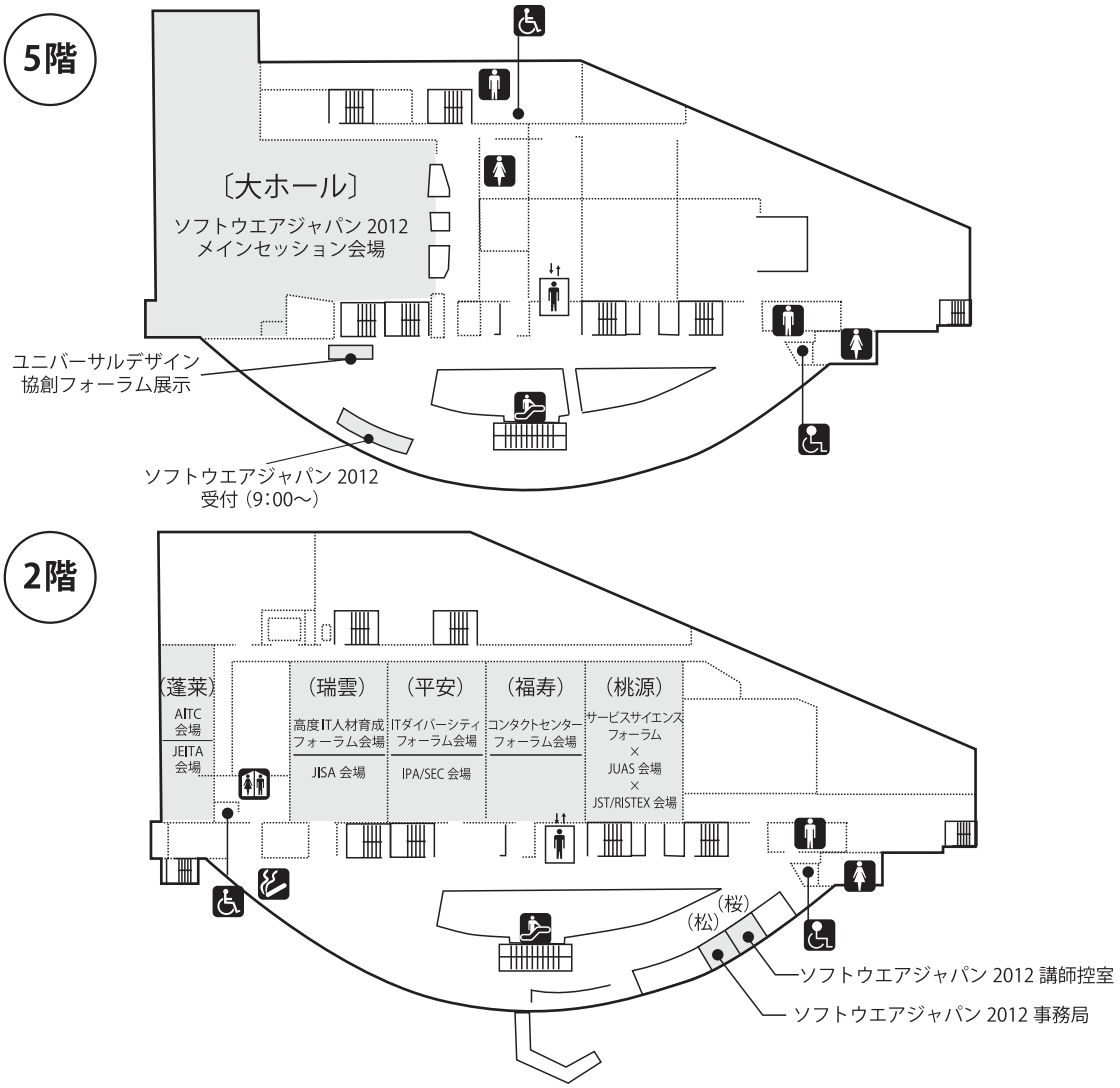
グーグル株式会社
Google™

記載の名称・ロゴは，各社・団体の商標です．掲載は申込み順です．

会場案内図



館内案内図［タワーホール船堀］



ソフトウエアジャパン 2012 参加者への注意事項

- 当館では，ご利用の皆様の安全をできる限り確保するため，緊急地震速報装置が設置されております．気象庁から緊急地震速報が発信されましたら地震の到着時間を館内にお知らせする放送が入りますのであらかじめご了承ください．
- 昼食場所は pp.18〜19 をご覧ください．
- 当施設は全館禁煙となっております．喫煙は2F〜4F にあるスモーキングラウンジにてお願いいたします．
- 当施設へのご飲食のお持込はご遠慮ください．
- 施設内では，ソフトウエアジャパン 2012 のネームタグを携帯いただきますようお願いいたします．
- 手荷物，PC，貴重品等は各自で管理していただきますようお願いいたします．

CIO 最高情報責任者は決断する

メインセッション プログラム（9：30 ～ 17：50）［会場：5F 大ホール］

9：30 ～ 9：35	Opening ／ IT フォーラム紹介
丸山　宏（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長／大学共同利用機関 情報・システム研究機構統計数理研究所）	

9：35 ～ 12：45	第 1 セッション：キーノート セッション
9：35 ～ 10：30	招待講演（1）：2012 年，CIO に高まる期待 日高信彦（ガートナー ジャパン（株）代表取締役社長）
10：35 ～ 11：15	招待講演（2）：サービス・イノベーションの広がりと CIO の新たな役割 碓井　誠（（株）オピニオン 代表取締役）
11：20 ～ 12：00	招待講演（3）：行政 CIO と公共イノベーション 川島宏一（佐賀県 特別顧問）
12：05 ～ 12：45	招待講演（4）：日立グループのグローバル情報システム戦略 大野　治（（株）日立製作所 執行役常務 IT 統括本部長）

12：45 ～ 13：45	お昼休み

13：45 ～ 15：30	第 2 セッション：パネルセッション「CIO が決断する時」
司　　会：土井美和子（（株）東芝 研究開発センター 首席技監） パネリスト：日高信彦（ガートナー ジャパン（株）代表取締役社長） 碓井　誠（（株）オピニオン 代表取締役） 川島宏一（佐賀県 特別顧問） 玉樹正人（（株）日立製作所 IT 統括本部 IT 戦略本部 本部長）	

15：45 ～ 17：45	第 3 セッション：ザ・ジャパンソフトウエアセッション
15：45 ～ 15：50	ソフトウエアジャパンアワード 表彰式
15：50 ～ 16：45	受賞講演（1）：Google Crisis Response 賀沢秀人（グーグル（株）シニアエンジニアリングマネージャ）
16：50 ～ 17：45	受賞講演（2）：プロボノエンジニアによる復興支援活動，sinsai.info と Hack For Japan 関　治之（sinsai.info 総責任者／合同会社 Georepublic Japan 代表社員／ CEO）

17：45 ～ 17：50	Closing ／デジタルプラクティスアワード表彰式
丸山　宏（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長／大学共同利用機関 情報・システム研究機構統計数理研究所） デジタルプラクティスアワード受賞者：川合史朗（Scheme Arts, L.L.C.）	

全体タイムテーブル

メインセッション

5F 大ホール	
9：30 ～ 9：35	Opening IT フォーラム紹介
9：35 ～ 12：45	第 1 セッション キーノートセッション

お昼休憩

5F 大ホール	
13：45 ～ 15：30	第 2 セッション パネルセッション
15：45 ～ 17：45	第 3 セッション ザ・ジャパンソフトウエア セッション
17：45 ～ 17：50	Closing デジタルプラクティス アワード表彰式

IT フォーラム

	桃源 2F	福寿 2F	平安 2F	瑞雲 2F	蓮菜 2F
13：30 ～ 15：30	サービス サイエンス フォーラム × JUAS(関連団体) × JST/RISTEX （関連団体）	コンタクト センター フォーラム	IT ダイバー シティ フォーラム	高度 IT 人材育成 フォーラム	AITC （関連団体）
15：45 ～ 17：45			IPA/SEC （関連団体）	JISA （関連団体）	JEITA （関連団体）

* 展示：ユニバーサルデザイン協創フォーラム［5F 大ホール前］
* IPA/SEC：独立行政法人情報処理推進機構 ソフトウエアエンジニアリングセンター
* JUAS：社団法人日本情報システム・ユーザ協会
* JST/RISTEX：独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
* JISA：一般社団法人情報サービス産業協会
* JEITA：一般社団法人電子情報技術産業協会
* AITC：先端 IT 活用推進コンソーシアム

ITフォーラムセッション

13：30 ～ 17：45 会場 2F 桃源	サービスサイエンスフォーラム ×JUAS 日本情報システム・ユーザー協会 ×JST 科学技術振興機構社会技術研究開発センター 「サービスサイエンスの近況を語り合う」
【セッション概要】今回は「JST 科学技術振興機構社会技術研究開発センター」と「JUAS 日本情報システム・ユーザー協会」との合同開催になります．テーマは「サービスサイエンスの近況を語り合う」で，講演とパネルディスカッションで，自由に近況を語っていただきます． 1. 世界のサービスサイエンスは，こんな形で進展している． 2. サービスサイエンスは，サービスの現場でこんなに役立っている． 3. JST，JUAS の研究プロジェクトでは，こんなテーマを議論している． 4. サービスサイエンスは，これからこんな議論をしていきたい．	
13：30 ～ 13：35	オープニング
13：35 ～ 14：05	講演 1：JST の問題解決型サービス科学の現状 澤谷由里子（(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター フェロー）
14：05 ～ 14：35	講演 2：サービスを買ってもらう前にファンにしてしまう 柴崎辰彦（富士通（株）SBM 変革推進室 シニアマネージャー）
14：35 ～ 15：05	講演 3：WOWOW カスタマーセンターにおけるサービスサイエンスの実践と成果 渡邊　博（(株) WOWOW コミュニケーションズ WOWCOM COLLEGE Div）
15：20 ～ 15：50	講演 4：JUAS のサービスサイエンス研究：IT サービスの顧客セグメンテーション 山本政樹（(株) エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー）
15：50 ～ 16：20	講演 5：サービス改革に活用できる実践的なサービス品質とサービスモデル 諏訪良武（ワクコンサルティング（株）エグゼクティブコンサルタント 常務執行役員）
16：35 ～ 17：45	パネル討論：サービスサイエンスの現状の課題と今後への期待 司　　会：門倉純一（一般社団法人 CRM 協議会 理事） パネリスト：澤谷由里子（(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター フェロー） 渡邊　博（(株) WOWOW コミュニケーションズ WOWCOM COLLEGE Div） 山本政樹（(株) エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー） 諏訪良武（ワクコンサルティング（株）エグゼクティブコンサルタント 常務執行役員）

13：30 ～ 15：30 会場 2F 福寿	コンタクトセンターフォーラム 「コンタクトセンター ～経営視点から見たその進化の条件～」
【セッション概要】企業にとってのお客様接点として，ますますその重要性が増すコンタクトセンター．これまで大きく進化を遂げてきているにもかかわらず，コンタクトセンターの存在自体，現状では，経営側から見たその位置づけは必ずしも高いとは言えない．本セッションでは，このギャップが，どうして存在するのか？　どうしたら解消していくのか？　コンタクトセンター実務責任者・専門誌編集者・専任コンサルタントを主要メンバとしたコンタクトセンターフォーラムにて議論を重ねてきた結果を基に，経営視点から見たコンタクトセンターを分類，先進事例の分析を踏まえてその進化の条件を提案する．	
13：30 ～ 13：50	講演 1：経営視点から見たコンタクトセンター進化の条件 宮崎義文（イー・パフォーマンス・ネクスト 代表）
13：50 ～ 14：40	講演 2：経営視点でのコンタクトセンター分類 増田由美子（(株)消費者の声研究所 代表取締役）
14：40 ～ 15：20	講演 3：先進事例分析にみるコンタクトセンターの進化 河合　洋（(株)リクルート CS 推進室 ゼネラルマネジャー）
15：20 ～ 15：30	質疑

13：30 ～ 15：30 会場 2F 平安	IT ダイバーシティフォーラム 「IT が実現する災害への備えとワークライフバランス ～ IT を知る経営者が決断する，IT の活かし方～」
【セッション概要】東日本大震災では，IT が重要な社会インフラであることが改めて認識されました．交通機関の遮断や節電への対応として，IT を活用した在宅勤務を実践した企業が注目を集めました．経営者が，組織の事業継続計画 BCP の策定などで，緊急時の代替手段を提供する IT に関して大きな決断を迫られている中，在宅勤務は緊急時のみではなく，平時から役に立つ魅力的な対策となっています．本セッションでは，IT をよく知る経営者の方に，ご自身や従業員のワークライフバランスに対する考えや災害への備え，そのための IT のあり方，現実に何を決断したか等を講演していただき，経営者の視点でのワークライフバランスと IT の活用について考えてみます．	
13：30 ～ 14：00	講演 1：企業も社員も強くなるテレワークの理論と実践 ～災害時の事業継続は結果としてついてくる！～ 田澤由利（(株)テレワークマネジメント 代表取締役社長）
14：00 ～ 14：30	講演 2：IT 活用で実現するワークライフバランス 青野慶久（サイボウズ（株）代表取締役社長）
14：30 ～ 15：00	講演 3：地方自治体における CIO の役割 豊田麻子（広島市市役所 元副市長兼 CIO）
15：00 ～ 15：30	講演 4：3.11 が気付かせてくれた真の働き方とは・・IT が実現する働き方のパラダイム 野木秀子（(株)CIJ 顧問（前副社長））

13：30 ～ 15：30 会場 2F 瑞雲	高度 IT 人材育成フォーラム 「高度 IT 資格制度「情報処理学会モデル」」
【セッション概要】情報処理学会では，高度な情報系人材の社会的地位の向上を図るとともに，IT に関連するさまざまな課題を包括的に解決するために，ITSS レベル 4 に準拠した高度 IT 資格制度の試案を作成した．IS ユーザ（企業，地方自治体，政府機関等）は高度な人材にシステム開発を委託したいとの強いニーズを持つが，IT ベンダが提示した人材を自ら評価できないという問題を抱えている．たとえば，このような状況において，高度 IT 資格は人材の能力を可視化・証明するツールとして価値が高い．本シンポジウムでは，国際的な通用性も考慮して構築した高度 IT 資格制度「情報処理学会モデル」の検討結果を報告し，高度 IT 資格制度およびそれを運営するためのさまざまな取り組み（各種試験制度，資格認証，外部認定，CPD，プロフェッショナル貢献など）を含むエコシステムを通じて情報系のプロフェッショナルコミュニティを構築するための方策について議論する．	
13：30 ～ 13：50	講演 1：高度 IT 人材資格制度のビジョン 旭　寛治（(株)日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室）
13：50 ～ 14：10	講演 2：高度 IT 資格の個人認証に関する情報処理学会モデル 芝田　晃（三菱電機（株)インフォメーションシステム事業推進本部 技術企画部 主管技師長）
14：10 ～ 14：30	講演 3：外部組織に対する高度 IT 資格認証業務の委任に関する情報処理学会モデル 掛下哲郎（佐賀大学 工学系研究科 准教授）
14：30 ～ 15：30	パネル討論：情報系のプロフェッショナルコミュニティ構築に向けて 司　　会　旭　寛治（(株)日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室） パネリスト　芝田　晃（三菱電機（株)インフォメーションシステム事業推進本部 技術企画部 主管技師長） 掛下哲郎（佐賀大学 工学系研究科 准教授） 安田　晃（IT プロ技術者機構 会長） 阿草清滋（名古屋大学 情報科学研究科 教授）

13：30 ～ 15：30 会場 2F 蓬莱	AITC 先端 IT 活用推進コンソーシアム 「先端 IT の技術者育成と活用推進を目指して ～ AITC におけるビジネス AR ＆クラウド技術の活動ご紹介～」
【セッション概要】「先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC)」は，企業システムにおける先端 IT の活用および先端 IT エキスパート技術者の育成を目指し，2010 年 9 月に設立されました．複数の企業が共同で調査・研究・検証・実証等を行うことで，先端 IT 適用の課題解決に寄与し，安定性や機密性等が求められる企業情報システムにおける先端 IT の適用サイクルを早め，同時に先端 IT に知見の深い技術者を育成し，先端 IT 活用による企業活動の価値向上に資することを目的に活動しています．また，安定性や機密性を求める社会基盤にも先端 IT の活用が進むことを目指しています．今回は，AITC の各種活動の中から，①ビジネスを AR で変革する領域をビジネス AR と定義し，ビジネス分野における AR の活用に取り組む「ビジネス AR 研究部会」，②クラウド技術を企業内で利用するため実践的アプローチで検証に励む「クラウド・テクノロジー研究部会」を取り上げ，考察も含め活動の一端をご紹介いたします．	
13：30 ～ 13：35	オープニング／ AITC 概要紹介 田原春美（AITC 副会長・運営委員会議長／ドリーム IT21）
13：35 ～ 14：15	講演 1：AR ―小さくて大きな話 武理一郎（AITC ビジネス AR 研究部会サブリーダー／富士通／富士通研究所）
14：15 ～ 14：35	講演 2：「目玉おやじロボット」と「タイムトラベルナビ」 中川靖士（AITC ビジネス AR 研究部会サブリーダー／日本ユニシス）
14：35 ～ 14：50	AITC 活動紹介 田原春美（AITC 副会長・運営委員会議長／ドリーム IT21）
14：50 ～ 15：30	講演 3：クラウド― Mahout を使ったプロトタイプ 荒本道隆（AITC クラウド・テクノロジー研究部会リーダー／アドソル日進）

15：45 ～ 17：45 会場 2F 平安	IPA/SEC 情報処理推進機構 ソフトウエア・エンジニアリングセンター 「レジリエンスの高い IT システムを目指して ～多面的リスクに備えたしなやかな回復力を持つ IT システムを考える～」
【セッション概要】昨年の東日本大震災以降，より強靭な社会インフラを構築しようとする取組みが進められつつあります．しかしながら，災害や外部からの攻撃・システム障害などの脅威に対して完璧なシステムは存在しません．極力強靱な社会システムを構築することはもちろんですが，万一壊れたときにも容易に復旧できるようなシステムを構築していくことも重要です．後者のような考え方は，レジリエンス（回復力，復元力，立ち直る力といった意味を表す語）と言われています．本セッションは，レジリエンスの高い IT システムに関する講演 1 つとパネル討論から構成されます．講演では，クラウドコンピューティングを活用して高いレ ジリエンスを有する IT システムを構築する方法について考察します．パネル討論では，幅広い関連分野のパネリストにより，レジリエンスの高い IT システム の構築に向けた課題と課題解決への取組みを中心に討議します．	
15：45 ～ 16：25	講演：クラウドを活用した高回復力システム基盤の構築・利用 榎木千昭（慶應義塾大学 商学研究科 特別招聘教授）
16：25 ～ 17：45	パネル討論：レジリエンスの高い IT システムを目指して 司　　会　田丸喜一郎（(独) 情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 統合系・組込み系プロジェクトサブリーダー） パネリスト　榎木千昭（慶應義塾大学 商学研究科 特別招聘教授） 加藤雅彦（(株)インターネットイニシアティブ セキュリティ情報統括室 シニアエンジニア） 片平真史（(独) 宇宙航空研究開発機構 情報・計算工学センター 技術領域リーダー） 丸山満彦（デロイトトーマツリスクサービス(株) 取締役執行役員） 小西一有（ガートナージャパン(株) エグゼクティブ プログラム エグゼクティブパートナー）

15：45 ～ 17：45 会場 2F 瑞雲	JISA 情報サービス産業協会 「JISA 情報技術マップの活用」
【セッション概要】JISA では，技術動向を把握することを目的とした「情報技術マップ調査」を 2004 年から実施している．本調査は，情報技術の利用実績や今後の着手意向について JISA 会員企業のエンジニアへアンケートを行った結果から，各技術がどの方向に動き出そうとしているのかを明らかにしようとするものである．今回は，2011 年度アンケート結果のデータを用いながら，本年度の技術トレンドを紹介する．また，情報技術マップが SI 企業の研究開発マネジメントや人材育成，ユーザ企業との対話にどのように活用することができるかについて紹介する．	
15：45 ～ 16：15	講演 1：情報技術マップとは 亀津　敦（(株) 野村総合研究所 情報技術本部イノベーション開発部 主任研究員）
16：15 ～ 16：55	講演 2：ライフサイクルマップについて 安藤　洋（(株) さくらケーシーエス 事業推進部 リーダ）
16：55 ～ 17：15	講演 3：新技術分析について 山口陽平（みずほ情報総研（株）ビジネスコンサルティング部 コンサルタント）
17：15 ～ 17：45	講演 4：情報技術マップ活用方法 亀津　敦（(株) 野村総合研究所 情報技術本部イノベーション開発部 主任研究員）

15：45 ～ 17：45 会場 2F 蓬莱	JEITA 電子情報技術産業協会 「個人が，社会が，企業が変わる！　その時 ICT の役割は？」
【セッション概要】OPEN，FREE，SHARE，PUBLIC，ソーシャルメディア… 世の中の大きなトレンドの変化を踏まえ，今いちど，ICT はどうあるべきか，世界をどう変えていくべきかを，参加者のみなさまと一緒に考えていきたいと思います．	
15：45 ～ 17：45	パネル討論：個人が，社会が，企業が変わる！　その時 ICT の役割は？ 司　　会　小林千早都（日本ユニシス（株）ICT サービス事業部 U-Cloud サービス企画部 チーフ・スペシャリスト） パネリスト　柴崎辰彦（富士通（株）SBM 変革推進室 シニアマネージャー） 谷口浩一（日本アイ・ビー・エム（株）政策渉外 エグゼクティブ）

ITフォーラム展示

9：30 ～ 17：30 会場 5F 大ホール前	ユニバーサルデザイン協創フォーラム 「見えなくても中身がわかる！！　バーコードを用いた視覚障碍者向け商品案内」
【セッション概要】相方が仕事のあいだ留守番しているとき，あるいは一人暮らしの方，下宿している学生さん！　まとめ買いしてきた商品や，棚の奥にしまってあった缶詰め，いままさに空けようとしているペットボトルの中身，インスタントラーメンの味が，空ける前になんだか分かったら，生活が楽しくなると思いませんか．バーコードを読み取って，視覚に障碍のある人に音声で知らせるプロジェクトを始めています，と聞いたら，「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから，ひとりで読むのは無理じゃないの？」と思いますよね．会場にデモソフトを用意していますので，視覚に障碍のある方もない方もぜひいらして体験してみてください．また，腕に自信のある方，ぜひフォーラムに参加して，ソフト開発にご協力ください．	

CIO 最高情報責任者は決断する

現在のCIOは，守りと攻めのバランスをとるという難しい戦略的判断を迫られています．

ITは企業にとってのクリティカル・インフラであり，サイバー攻撃や震災等の自然災害に対しても，継続してITサービスを提供することは，CIOにとっての至上命題になっています．さらに，新たに生まれてきつつあるクラウドコンピューティングなどのトレンドをうまく利用して，グローバルな環境の中でコストを削減しながら，サービスレベルを守っていかねばなりません．

一方，企業における情報（データ）の価値はますます高まっています．データを利用し，また既存のビジネスプロセスを見直すことによって，新しいサービスが次々と生まれています．企業が持つさまざまなデータやプロセスを有機的に結びつければ，大きな企業価値につなげることができるでしょう．CIOは，企業のさまざまな部門が持つデータやプロセスを横断的に俯瞰できる，唯一のエグゼクティブです．リーダーシップを発揮してビジネスの新しい価値を創造していくのが，攻めのCIOの役割といえるでしょう．

ソフトウエアジャパン2012では，このようなCIOの役割に焦点をあて，当会で実務家向けに季刊で発行している「デジタルプラクティス」誌の特集「CIOは決断する（2012年1月発行）」と連携しながら，新しい時代のCIOの役割を議論していきます．

一般社団法人 情報処理学会

メインセッション［会場：5F 大ホール］

総合司会

谷口倫一郎（情報処理学会ソフトウエアジャパン2012実行委員会委員長／九州大学大学院 システム情報科学研究院 教授）

【略歴】1978年九州大学工学部情報工学科卒業．1980年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了．同年同大学院総合理工学研究科助手．1989年同助教授．1996年九州大学大学院システム情報科学研究科（現研究院）教授．2011年同大学院システム情報科学研究院長．この間，画像処理，コンピュータビジョン，並列処理ソフトウェア等に関する研究に従事．1993年情報処理学会論文賞，1995年同坂井記念特別賞等受賞．

9：30 ～ 9：35　Opening ／ ITフォーラム紹介

丸山　宏（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長／大学共同利用機関 情報・システム研究機構統計数理研究所 教授）

【略歴】1983年東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了．同年日本アイ・ビー・エム（株）入社．人工知能，自然言語処理，機械翻訳などの研究に従事．1995年京都大学より博士（工学）授与．1996年米IBMソフトウェア事業部において，インターネット技術の評価．以降，XMLやWebサービスの研究開発・標準化に従事．1997年～2000年東京工業大学情報理工学研究科客員助教授，2003年アイ・ビー・エム・ビジネスコンサルティング・サービスへ出向．2006年～2009年日本アイ・ビー・エム（株）東京基礎研究所所長．2009年～2010年キヤノン（株）デジタルプラットフォーム開発本部副本部長．2011年4月より現職．

9：35 ～ 12：45　第1セッション：キーノートセッション

招待講演（1）：2012年，CIOに高まる期待／ 9：35 ～ 10：30

【講演概要】ICTの発展に伴いビジネスへの影響範囲はますます拡大している．同時にインフラのコモディティ化が進み，クラウドといった新しいサービスが出現し，成長している．また個人のICT化も進展しており，ソーシャル系が拡大することによって情報の流通や知識の共有が進んでいる．一方，世界経済は2011年に始まったヨーロッパの新たなリスクをきっかけに混迷を強め，先の読めない状態が続いている．このような環境の中で各企業はどのような戦略で今後の成長を図るべきなのか，その中でCIOは何を期待され，それをどのような優先順位で実行していくべきなのか．世界4,500社のCIOにアドバイスするガートナーの分析を通し2012年の方向性を探る．

日高信彦（ガートナー ジャパン（株）代表取締役社長）

【略歴】1976年東京外語大外国語部卒業後，日本アイ・ビー・エム入社．27年にわたり同社の顧客システム開発，大和研究所や米国研究所での製品開発，ビジネス・ソリューション事業で数多くの業績を残す．1996年，アプリケーション・システム開発部長．1999年，CRM社内ベンチャー・コアポイントのアジア・パシフィック担当ジェネラルマネジャー．2001年，アジア・パシフィックCRM/BIソリューション統括．2002年，eビジネス・ソリューションズ　CRMソリューションズ参与．2003年4月，ガートナー ジャパン（株）代表取締役社長に就任．テクノロジのトレンド，マーケットのトレンド，他のユーザがどのようにITを使いこなしているのかという3つの情報を正確に，満遍なく収集し，同時に，ガートナーに蓄積されたグローバルな情報をベースに，迅速かつ的確なアドバイスで日本企業の経営戦略策定をサポートしていくことを掲げている．

招待講演(2)：サービス・イノベーションの広がりと CIO の新たな役割／ 10：35 ～ 11：15

【講演概要】人々の価値観の変化と，社会と産業のサービス化，グローバル化が進む中で，供給→需要型の企業活動や経済中心の産業社会の枠組みが世の中の進化に対応できなくなってきています．こうした革新の大きな推進力である情報技術の進展は，そのオープン性，サービスレベルとコストパフォーマンスの圧倒的な向上，不特定多数間の自由な接続環境を生み出しつつも，ICTの活用能力面では大きなバラツキと課題が生じています．ICTがGPT（General Purpose Technology）へと進化し，産業社会が企業と社会の共通価値の獲得へと向かう現在，企業の枠組みを超えた新たな社会サービスと生活者起点型の価値共創を推進する新たなIT活用の広がりが求められています．サービス・イノベーションの広がりの中で，そのエンジンであるICTの組立てと，そのハンドルを握るCIOの役割はますます重要性を増しており，CIOは自らを解き放ち，時代に対応した自己革新を図る必要があります．

碓井　誠（(株)オピニオン 代表取締役）

【略歴】1978年セブン-イレブン・ジャパン入社．業務改革とIT革新を推進するとともに，米セブン-イレブンの再建や，ATM事業，インターネット事業などを手掛ける．2000年，常務取締役情報システム本部長に就任．その後，2004年にフューチャーシステムコンサルティング（現フューチャーアーキテクト）取締役副社長に就任．2009年より芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科 教授，2010年より京都大学経営管理大学院 特別教授などを兼務．2011年9月（株）オピニオンを設立，代表取締役．著書『セブン-イレブン流 サービス・イノベーションの条件』日経BP社（2009年）他．

招待講演(3)：行政 CIO と公共イノベーション／ 11：20 ～ 12：00

【講演概要】行政CIOとはどんな仕事をしているのか？　知識交流が起こす公共イノベーションとは？　CIOが破るべき情報の縦の壁と横の壁（縦の壁：ビジョニング・マネジメント・オペレーション，横の壁：国内外，中央地方，公民，部門間）とは？　行政CIOをとりまく最近の議論（ICT利活用から情報利活用へ，政府CIO体制整備のグランドデザイン…）は？　といった視点から，現在の行政CIOが取り組んでいる課題と新しい時代の行政CIOの役割について解説します．また，東日本大震災からCIO業務への教訓や諸外国におけるオープン・ガバメントの動きを説明し，こうした状況変化を踏まえた，これからの行政CIOの役割について展望します．

川島宏一（佐賀県 特別顧問）

【略歴】2006年から5年間佐賀県CIOとして業務改革と情報化を牽引．予算の完全開示から公民協働を進めた「協働化テスト」が国連公共サービス賞を日本初受賞（2010年度）．日経BP・ITガバナンスランキング第1位（2008年度）．自治体クラウド，診療録連携システム，フューチャースクール，情報化ビレッジ等を手がける．2009年からIT戦略本部・電子政府タスクフォース構成員．佐賀県着任前は，世界銀行で東アジアの都市開発戦略を支援．旧建設省出身．社会工学博士（筑波大学），都市計画修士（MIT）．専門は公共イノベーション．

招待講演(4)：日立グループのグローバル情報システム戦略／ 12：05 ～ 12：45

【講演概要】日立グループは，従業員数約35万人，国内約350社，海外約550社からなる巨大な企業グループである．製造，販売，調達，R&Dの拠点は全世界に展開されており，グローバル化が進行中である．また，事業領域は社会インフラ，情報・通信，コンシューマエレクトロニクスまで多岐にわたっている．このような企業グループにおいて，グループ全体を有機的に結合し全体最適化を図り，コングロマリットプレミアムを発揮するためには，ITの活用が不可欠である．また，同時にIT投資の適正化も重要な課題である．現在進行中の国内，海外含めたグループ全体のITの標準化と集約に向けた，ITガバナンスの枠組みと体制と現在までの成果について説明する．また，グローバルなネットワークの統一やセキュリティ対策など具体的課題に対する対応について説明する．さらに，遂行する上で現れたさまざまな課題とその解決策について，実践に基づいて説明する．

大野　治（(株)日立製作所 執行役常務 IT統括本部長）

【略歴】1969年，日立製作所入社．SEとして官公庁，自治体のシステム開発に携わる．2001年，生産技術統括本部長兼PM本部長に就任し，システムソリューション部門の生産性向上に取り組む．2005年より，情報システム事業部長として日立グループ全体のITの標準化と集約に取り組む．2009年執行役常務．2010年よりIT統括本部長を兼務．プロジェクトマネジメント学会会長（2007～2008）．国際CIO学会理事．工学博士．

13：45 ～ 15：30　第 2 セッション：パネルセッション

パネル討論：CIO が決断する時／ 13：45 ～ 15：30

【討論概要】CIOは単に情報を管理するだけでなく，情報を駆使して決断をし，イノベーションを起こされています．想定外の情勢の中でCIOは何を期待され，それをどのような優先順位で実行していくべきなのかを，体験を踏まえて語っていただき，今後の方向性を探るディスカッションにしたいと存じます．

司会：土井美和子（（株）東芝 研究開発センター 首席技監）

【略歴】1979年東京大学工学系修士課程修了．同年現在の（株）東芝研究開発センター入所．「ヒューマンインタフェース」を専門分野とし，日本語ワープロ，機械翻訳，道案内サービス，ネットワークロボットの研究開発に従事．現在，日本学術会議会員，東京大学客員教授，東工大経営協議会委員，国立情報学研究所運営会議委員，科学技術振興機構運営会議委員，ヒューマンインタフェース学会会長などを務める．IEEE Fellow，情報処理学会フェロー，電子情報通信学会フェロー．博士（工学）．

パネリスト：日高信彦（ガートナー ジャパン（株）代表取締役社長）　写真・略歴は，招待講演（1）を参照．

パネリスト：碓井　誠（（株）オピニオン 代表取締役）　写真・略歴は，招待講演（2）を参照．

パネリスト：川島宏一（佐賀県 特別顧問）　写真・略歴は，招待講演（3）を参照．

パネリスト：玉樹正人（（株）日立製作所 IT統括本部 IT戦略本部 本部長）

【略歴】1979年日立製作所入社．産業流通分野システムエンジニアを経て，87年よりITコンサルティング関連事業の立ち上げに参加．BPR等の業務コンサルティング，EAIなどのITコンサルティングに従事．04年事業部長，06年（株）日立コンサルティング取締役，2010年より現職．

15：45 ～ 17：45　第3セッション：ザ・ジャパンソフトウエアセッション

ソフトウエアジャパンアワード 表彰式／ 15：45 ～ 15：50

受賞講演（1）：Google Crisis Response ／ 15：50 ～ 16：45

【講演概要】Googleでは2011年3月11日の震災発生直後から，被災地での救援および復興活動を支援するための取り組みCrisis Responseを続けている．本講演ではエンジニアとして初期段階からCrisis Responseに参加してきた経験をもとに，実際の開発現場で何が起きていたのか，そして非常時におけるソフトウェア開発について何を学んだのかについて紹介する．さらに次の震災に備えてソフトウェア業界ができることについていくつか提言を行う．

賀沢秀人（グーグル（株）シニアエンジニアリングマネージャ）

【略歴】1997年 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了．2006年 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了．1997～2006年，日本電信電話（株）コミュニケーション科学基礎研究所にて，自然言語処理および機械学習の研究に従事．2006年より，グーグル（株）にて，ウェブ検索および機械翻訳の研究開発に従事．2011年 震災後より，震災対応を兼務．博士（工学）．

受賞講演（2）：プロボノエンジニアによる復興支援活動，sinsai.info と Hack For Japan ／ 16：50 ～ 17：45

【講演概要】2011年3月11日に発生した東北大震災の情報収集プラットフォームとして震災後4時間後から稼働を開始したsinsai.infoは，多くのボランティア技術者やモデレーターに支えられ，数多くの震災関連データを収集，提供してまいりました．また，Hack For Japanはエンジニアによる復興支援コミュニティとして数多くのプロジェクトの立ち上げを支援してまいりました．プロボノエンジニアは，災害時にどのように貢献すれば良いのでしょうか．sinsai.infoの代表として，またHack For Japanスタッフとしての経験から，うまくいったこと，いかなかったこと，今後整えるべき体制づくりなどをお話させていただきます．

関　治之（sinsai.info 総責任者／合同会社Georepublic Japan 代表社員／ CEO）

【略歴】Geo Developer／合同会社Georepublic Japan CEO．位置情報を活用したメディア，ジオメディアの普及を目的としたフリーカンファレンス，ジオメディアサミットを主催している．2011年3月11日に発生した東日本大震災の後，震災復興を支援するために立ち上げられた復興支援プラットフォームサイト，sinsai.infoの総責任者として運営に携わる．sinsai.infoは，平成23年度の情報化月間推進会議議長表彰を受賞．Twitter: hal_sk

17：45 ～ 17：50　Closing ／デジタルプラクティスアワード表彰式

丸山　宏（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長／大学共同利用機関 情報・システム研究機構統計数理研究所 教授）

写真・略歴は，Openingを参照．

【デジタルプラクティスアワード】

受 賞 者：川合史朗（Scheme Arts，L.L.C.）

タイトル：Gaucheの開発戦略－小規模プロジェクトこそ国際化を考えよう－

掲 載 号：情報処理学会デジタルプラクティス，Vol.2，No.2（通巻第6号）

IT フォーラムセッション［会場：2F 各会場］

サービスサイエンスフォーラム × JUAS 日本情報システム・ユーザー協会 × JST 科学技術振興機構社会技術研究開発センター ［会場 2F 桃源］

■ サービスサイエンスの近況を語り合う

【セッション概要】今回は，「JST 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター」と「JUAS 日本情報システム・ユーザー協会」との合同開催になります．テーマは「サービスサイエンスの近況を語り合う」で，講演とパネルディスカッションで，自由に近況を語っていただきます．

1. 世界のサービスサイエンスは，こんな形で進展している．
2. サービスサイエンスは，サービスの現場でこんなに役立っている．
3. JST，JUASの研究プロジェクトでは，こんなテーマを議論している．
4. サービスサイエンスは，これからこんな議論をしていきたい．

司会：門倉純一（一般社団法人CRM協議会 理事）

【略歴】日本アイ･ビー･エム入社後，電子系のCAD / CAMなどのアプリケーション分野の営業に従事，IBM初のVANサービス営業を経て，通信とコンピュータを融合したシステムの営業推進を担当．80年代後半からはコールセンターを中心に担当し，その発展形としてビジネスとしてのCRM部門立ち上げに参加．当部門の責任者を経て現在CRMの営業支援を担当．1970年日本アイ・ビー・エム入社，1980年代後半より，CTI，IVRなどの製品を担当．以後コールセンタービジネスを担当．1996年頃より，CRMビジネスの担当．1999年CRMのマーケティング，営業支援．2001年CRM協議会参加．

オープニング／ 13：30 ～ 13：35

講演（1）：JST の問題解決型サービス科学の現状／ 13：35 ～ 14：05

【講演概要】2004年のイノベート・アメリカでのサービス科学創出の提言を契機に，日本においても多くの取り組みが行われている．科学技術振興機構 社会技術研究開発センターでは，2010年度から「問題解決型サービス科学研究開発」プログラムを開始した．本プログラムでは，サービス化する社会の問題やニーズをサービス・システムとして捉え，現場のデータを活用し，革新的な技術および統合・デザイン手法等を開発・検証することを目的とする．サービス科学研究開発では，異分野の研究者とサービス関与者との“価値共創（Value Co-creation）”によって，サービス科学の基盤の構築とともに社会に実践的な価値を生み出していく．本講演では，このプログラムの取り組みを紹介をする．

澤谷由里子（（独）科学技術振興機構 社会技術研究開発センター フェロー）

【略歴】日本IBM入社．ソフトウェア開発，研究開発戦略部門を経て，東京基礎研究所 パーソナル・システム・ストラテジスト，ワトソン研究所で研究評価アサインメント．東京研究所に戻り，サービス研究に従事．2010年5月より現職．

講演（2）：サービスを買ってもらう前にファンにしてしまう／ 14：05 ～ 14：35

【講演概要】お客様の事前期待を読み，ソーシャルメディアを活用することで，「買ってもらう前にお客様をファンにしてしまう」という，従来の常識では考えられない新しい発想でビジネスを拡大する方法を紹介する．具体的には，「SNSを活用して，お客様の期待していることを察知して，お客様の期待に沿った“共感性のコミュニケーション”を実践できるか」をサービスサイエンスを駆使して論理的に解説する．

柴崎辰彦（富士通（株）SBM変革推進室 シニアマネージャー）

【略歴】1987年立教大学卒業．専攻は，消費者心理学，産業心理学．同年富士通（株）に入社し，企業内ネットワークシステムや画像システムのマーケティングに 従事．1996年より，同社のCRMビジネスの立ち上げに参画し，顧客サービスと顧客満足度（CS）の関係に強い関心を持つ．現在は，同社のソリューショ ンビジネス全般の企画業務に従事し，次世代のソリューションビジネスの立ち上げに取り組む．

講演（3）：WOWOW カスタマーセンターにおけるサービスサイエンスの実践と成果／ 14：35 ～ 15：05

【講演概要】WOWOWのコールセンターは，業務改革に取り組み，顧客満足アンケートは大いに改善された．しかし，本来目的の契約締結率は，横ばいで改善の兆しも見えてこなかった．その頃に出会ったサービスサイエンスを適用して，業務改革に取り組んだ．ロジカルな改善の取り組みは，予想を上回る大きな成果を実現してくれた．

渡邊　博（（株）WOWOWコミュニケーションズ WOWCOM COLLEGE Div）

【略歴】1998年よりテレマーケティング業界に従事，通信業界（回線・ISP）・健康／美容通販業界・カード会社等，新規加入獲得アウトバウンド・インバウンドセンター運営とマネジメントを経験・特にセールスセンターの受発信業務運営構築と成果向上コンサルティングを得意とする新規外販営業の経験を活かし，顧客満足・成果向上にこだわったクライアント企業のセンター改善活動に携わる．

講演(4)：JUAS のサービスサイエンス研究：IT サービスの顧客セグメンテーション／ 15：20 ～ 15：50

【講演概要】 JUAS(日本情報システム･ユーザー協会) では2008年度から会員研究プロジェクトとしてサービスサイエンスを取り上げ, サービスサイエンスの基礎知識の理解，ITサービスの分解･モデル化などの研究を進めてきた．2010年度および2011年度の研究テーマとしては, システム開発サービスにおけるお客様のセグメント分解とセグメント別の期待値の分析を行っている．この結果，システム開発サービスのお客様にはお客様側にも多様な役割が存在すること，そして同じ役割のお客様でも個別に異なった期待値を持つ方が多く存在することが分かってきた．今回はその研究成果を紹介する．

山本政樹（(株)エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー）
【略歴】 立命館大学政策科学学部卒業後，アクセンチュアにて業務コンサルタントとして活躍．フリーコンサルタントを経てLTSに入社．各種調査，大規模システム開発における業務設計，新業務の導入推進など業務コンサルタントとしての経験が長い．加えてプロジェクト管理，システム開発方法論の開発／導入等にも従事．またJUASサービスサイエンス研究プロジェクトでシステム開発分科会リーダーを務めるなどサービスサイエンスの実務適用に関する研究も行っている．

講演(5)：サービス改革に活用できる実践的なサービス品質とサービスモデル／ 15：50 ～ 16：20

【講演概要】 サービスの価値を上げていくためには，大きく3つの方向がある．1つは，サービス品質を高めることである．もう1つは，お客様の事前期待をいかに把握して，それに応えていくことである．そして，3つ目は，サービス提供者とお客様によるサービスの共創である．本講演では, サービス品質の新しい定義とお客様の事前期待に応えていくための実践的なサービスモデルを解説する．IPSJとJUASでは, この2つの要素を深掘りして，新しいサービスモデルを構築しつつある．本講演では，これまでに明らかになったロジックを紹介する．

諏訪良武（ワクコンサルティング（株）エグゼクティブコンサルタント 常務執行役員）
【略歴】1971年オムロン入社. 1985年通産省のΣプロジェクトに参加. 1995年情報化推進センター長. 1997年オムロンフィールドエンジニアリングの常務取締役として保守会社の改革を指揮．2006年ワクコンサルティング常務執行役員，国際大学グローバルコミュニケーションセンターの上席客員研究員，2010年多摩大学大学院客員教授．サービスや顧客満足を科学的に分析し，サービス企業の改革を支援するサービスサイエンスを提唱している．著書「顧客はサービスを買っている」（ダイヤモンド社）．

パネル討論：サービスサイエンスの現状の課題と今後への期待／ 16：35 ～ 17：45

司　　会：門倉純一（一般社団法人CRM協議会 理事）　写真・略歴は，司会を参照．
パネリスト：澤谷由里子（(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター フェロー）　写真・略歴は，講演（1）を参照．
パネリスト：渡邊　博（(株）WOWOWコミュニケーションズ WOWCOM COLLEGE Div）　写真・略歴は，講演（3）を参照．
パネリスト：山本政樹（(株)エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー）　写真・略歴は，講演（4）を参照．
パネリスト：諏訪良武（ワクコンサルティング（株）エグゼクティブコンサルタント 常務執行役員）写真・略歴は，講演（5）を参照．

コンタクトセンターフォーラム　［会場 2F 福寿］
■ コンタクトセンター ～経営視点から見たその進化の条件～

【セッション概要】 企業にとってのお客様接点として，ますますその重要性が増すコンタクトセンター．これまで大きく進化を遂げてきているにもかかわらず，コンタクトセンターの存在自体，現状では，経営側から見たその位置づけは必ずしも高いとは言えない．本セッションでは，このギャップが，どうして存在するのか？　どうしたら解消していくのか？　コンタクトセンター実務責任者・専門誌編集者・専任コンサルタントを主要メンバとしたコンタクトセンターフォーラムにて議論を重ねてきた結果を基に，経営視点から見たコンタクトセンターを分類，先進事例の分析を踏まえてその進化の条件を提案する．

司会：宮崎義文（イー・パフォーマンス・ネクスト 代表）
【略歴】 大手通信メーカにて，ディジタル電子交換機の開発に従事．その後，日本アイ・ビー・エムにて，日本初の銀行系テレホンバンキング導入を始めとし，銀行・生保・損保・通信・製造・流通業界を中心に20以上のコンタクトセンター／CRMの構築プロジェクトに従事．IBMビジネスコンサルティング, IBMビジネスアウトソース部門にて, コンサルティング領域にとどまらずセンタの構築・運用も実践する．2009年より，イー・パフォーマンス・ネクスト代表 コンサルティング活動中．

講演(1)：経営視点から見たコンタクトセンター進化の条件／ 13：30 ～ 13：50

【講演概要】 企業にとってのお客様接点として，ますますその重要性が増すコンタクトセンター．これまで大きく進化を遂げてきているにもかかわらず，コンタクトセンターの存在自体，現状では，経営側から見たその位置づけは必ずしも高いとは言えない．本セッションでは, その原因についてコンタクトセンターフォーラムのメンバ（コンタクトセンター実務責任者・専門誌編集者・専任コンサルタント）にて議論を重ねてきた結果と後半の講演での解決策の概要を説明する．

宮崎義文（イー・パフォーマンス・ネクスト 代表）　写真・略歴は，司会を参照．

講演(2)：経営視点でのコンタクトセンター分類／ 13：50 ～ 14：40

【講演概要】経営から見て，コンタクトセンターの活用価値が見えているのだろうか？　コンタクトセンターは実は大変多岐にわたるため，精密な議論を展開するにあたって経営視点からの分類が重要になる．本講演では，コンタクトセンターの経営視点に加えてお客様視点からの分類方法を提案し，経営視点からのコンタクトセンターの価値を展望する．

増田由美子（(株)消費者の声研究所 代表取締役）

【略歴】中央大学法学部卒業．大手テレマ会社で銀行・保険を中心とするカスタマーセンター，ダイレクトマーケティングセンター構築コンサルティングおよび稼働センター運用受託業務の統括を担当後，グローバルIT企業でCRM/BIコンサルティングクラスターパートナーとして稼働．2009年6月に独立．現在（株）消費者の声研究所代表．2003年より国立大学法人琉球大学非常勤講師．（財）日本消費生活アドバイザーコンサルタント協会（NACS）会員．

講演(3)：先進事例分析にみるコンタクトセンターの進化／ 14：40 ～ 15：20

【講演概要】コンタクトセンターがいかに経営に対して存在感をアピールできるか，経営に対してどのように貢献できるか，コンタクトセンターにとって重要なテーマです．経営に対して影響力を発揮している先進的な事例を分析し，収益向上，ブランド価値向上，顧客との関係性の変化，VOCの活用，顧客の満足度評価，従業員の満足などの観点で先進企業がどのような手段を用いて成果を上げてきたか，どのように進化を遂げてきているか考察しました．各コンタクトセンターの課題感に合わせて次のうち手のヒントが見つかればと考えています．

河合　洋（(株)リクルート CS推進室 ゼネラルマネジャー）

【略歴】1987年(株)リクルート入社．人事部，経理部を経て1994年に審査部門でお客様相談室を担当．2000年じゃらんネットのコンタクトセンターを構築．2006年CS推進室を組織化．VOCの活用，応対品質の向上，従業員満足度向上の仕組み作りを行い，従業員が活き活きと働き，人が育つコンタクトセンター作りを行う．

質疑／ 15：20 ～ 15：30

ITダイバーシティフォーラム　［会場 2F 平安］
■ITが実現する災害への備えとワークライフバランス ～ ITを知る経営者が決断する，ITの活かし方～

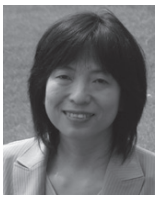
【セッション概要】東日本大震災では，ITが重要な社会インフラであることが改めて認識されました．交通機関の遮断や節電への対応として，ITを活用した在宅勤務を実践した企業が注目を集めました．経営者が，組織の事業継続計画BCPの策定などで，緊急時の代替手段を提供するITに関して大きな決断を迫られている中，在宅勤務は緊急時のみではなく，平時から役に立つ魅力的な対策となっています．本セッションでは，ITをよく知る経営者の方に，ご自身や従業員のワークライフバランスに対する考えや災害への備え，そのためのITのあり方，現実に何を決断したか等を講演していただき，経営者の視点でのワークライフバランスとITの活用について考えてみます．

司会：村山優子（岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 コミュニケーション学講座 教授）

【略歴】津田塾大学学芸学部数学科卒．三菱銀行，横河ヒューレット・パッカード社勤務を経て，1984年ロンドン大学院理学部計算機科学科修士課程修了，1992年博士課程修了．Ph.D．慶應義塾大学非常勤講師，広島市立大学講師を経て，1998年より岩手県立大学ソフトウェア情報学部助教授，2002年より教授．現在に至る．インターネット，トラストと安心の研究に従事．情報処理学会監事，フェロー．IEEE，ACM，電子情報通信学会，映像情報メディア学会，日本OR学会，情報知識学会各会員．

講演(1)：企業も社員も強くなるテレワークの理論と実践 ～ 災害時の事業継続は結果としてついてくる！～／ 13：30 ～ 14：00

【講演概要】東日本大震災後，「事業の継続」「社員の安全」「節電対策」などの視点からテレワーク（在宅勤務）が注目されています．しかし，実際には，在宅勤務制度を導入していた企業すべてが，その恩恵を得たわけではありません．在宅勤務制度は制度としてあるものの，一部の人しか使えず機能しなかった．システムは導入しているものの，できる仕事が限られていた．節電はできたけど，業務の効率は低下した．そんな中，どんなテレワークをしていた企業が，そのメリットを享受できたのか．その理由をひも解き，テレワークを正しく導入するための理論を明確にします．また，出産・子育てと夫の転勤でテレワークをはじめて20年，在宅型テレワーカーがチームで働ける会社を作って13年，在宅勤務者をメインとする会社を立ち上げて2年．自らテレワークを実践している私が，「セキュリティは大丈夫?」「業務のコミュニケーションは?」「時間管理はどうするの?」といった，導入時の疑問にも，実例をもとにお答えします．



田澤由利（（株）テレワークマネジメント 代表取締役社長）

【略歴】奈良県生まれ，北海道在住．上智大卒．シャープ（株）でパソコンの商品企画を担当するが，結婚･出産により退職．フリーライターを経て，1998年にワイズスタッフを設立．「ネットオフィス」コンセプトを実践し，全国150名のテレワーカーをマネジメントする．2008年（株）テレワークマネジメントを設立し，経験とノウハウを活用して，企業の在宅勤務導入支援やテレワークの普及活動に携わる．

講演（2）：IT 活用で実現するワークライフバランス／ 14：00 ～ 14：30

【講演概要】今後ますますダイバーシティが進行していく中，企業としてさまざまな働き方が可能な環境を築いておくことは必須条件です．サイボウズでは，「より多くの人が，より成長して，より長く働ける環境の提供」を目指して，ワークライフバランスに取り組んでおります．その一環として，2010年8月より在宅勤務制度を導入し，2011年の4月より本格導入いたしました．試験導入の経験から，3月の震災時，決算発表のさなかであったにもかかわらず滞りなく業務を推進することができました．今回の講演では，私自身が育児休暇を取得して感じたことや，ワークライフバランスの取り組みとその結果などの事例を中心にご紹介いたします．

青野慶久（サイボウズ（株）代表取締役社長）

【略歴】1971年，愛媛県生まれ．大阪大学工学部卒業後，松下電工（株）を経て，1997年，愛媛県松山市でサイボウズ（株）を設立，取締役副社長に就任．マーケティング担当として新市場を切り拓く．その後，プロダクト・マネージャーとして新商品の開発責任者を務める．事業企画室担当，海外事業担当を歴任し，2005年4月に代表取締役社長に就任．著書に，『ちょいデキ！』（文春新書）がある．2010年8月，育児休暇取得．

講演（3）：地方自治体における CIO の役割／ 14：30 ～ 15：00

【講演概要】地方自治体では，戸籍，住民票，税，福祉などいわゆる基幹系といわれる大規模なシステムから施設予約など小規模なシステムまで200近いシステムが稼働しており，業務の基盤となっている．こうしたシステムの予算，調達等を全庁統一的に管理することにより，業務の効率化とコストの削減効果が期待される．広島市で実際に進めてきた取組みについて紹介する．また，市民の生活に直接かかわる地方自治体だからこそ，市民生活におけるICTの活用についても，多くのアイディアがある．福祉，教育，環境を始め，現在，市民の関心が高まっている災害対策の分野において，広島市では，関係部署が横断的な連携を取りながら，ICT施策を推進してきた．それらの先進的な取組みについて，紹介する．

豊田麻子（広島市市役所 元副市長兼CIO）

【略歴】東北大学大学院工学研究科修了．1990年郵政省入省．郵政省，総務省にて情報通信技術政策，放送政策，地域情報化振興，国際関係の分野に従事．ハーバード大学国際問題研究所，在フランス日本国大使館，（独）情報通信研究機構の勤務を経て，2008年7月より2011年2月まで広島市副市長およびCIO.

講演（4）：３．１１が気付かせてくれた真の働き方とは・・ IT が実現する働き方のパラダイム／ 15：00 ～ 15：30

【講演概要】戦後，日本は世界が驚く復興をとげた．基本は少品種大量生産であり，長時間労働は生産性向上に寄与した．なるべく単色の24時間働く企業戦士によって，世界の経済大国になったと言っても過言ではない．男は会社，女は家庭という固定的な役割分担が貢献したことは間違いない．しかしグローバル化と少子高齢化が進んだ現在は‘多様性’こそが企業を活かすキーワードである．多様性の主要な部分は日本の場合，‘女性’である．世界的に類を見ない日本の女性労働力の低さや管理職クラスの少なさは世界から異様視されている．女性を活かすには時間で勝負する男性の働き方を見直す時期にきている．そんな時，3.11がおきた．多くはこのとき，家庭の大切さを再認識し，同時にITのすばらしさを認識した．通常の企業活動が不能になったとき，ITは在宅を始めとしたテレワークを可能とした．やっと，時間でなく，アウトプット．家族が一緒にいる幸福を実感した．少子高齢化を乗り切るためにも今こそ働き方のパラダイムシフト，ワークライフバランスの実現がのぞまれる．

野木秀子（（株）CIJ 顧問（前副社長））

【略歴】1971年日立製作所システム開発研究所入社．データアクセスの効率化従事．1975年，現CIJに入社．1992年欧州ソフトウェア品質国際会議にて，ベストスピーカ賞受賞．営業活動を行い，多くの顧客を得，CIJを東証一部上場企業に導く実績を作った．日科技連SPCで女性初の委員．1992年より，CIJ取締役，2006～2009年副社長．現在，CIJ顧問，神奈川県情報サービス産業協会副会長，早稲田大学客員教授，横浜市教育委員会委員など．

高度 IT 人材育成フォーラム　［会場 2F 瑞雲］
■ 高度 IT 資格制度「情報処理学会モデル」

【セッション概要】情報処理学会では，高度な情報系人材の社会的地位の向上を図るとともに，ITに関連するさまざまな課題を包括的に解決するために，ITSSレベル4に準拠した高度IT資格制度の試案を作成した．ISユーザ（企業，地方自治体，政府機関等）は高度な人材にシステム開発を委託したいとの強いニーズを持つが，ITベンダが提示した人材を自ら評価できないという問題を抱えている．たとえば，このような状況において，高度IT資格は人材の能力を可視化・証明するツールとして価値が高い．本シンポジウムでは，国際的な通用性も考慮して構築した高度IT資格制度「情報処理学会モデル」の検討結果を報告し，高度IT資格制度およびそれを運営するためのさまざまな取り組み（各種試験制度，資格認証，外部認定，CPD，プロフェッショナル貢献など）を含むエコシステムを通じて情報系のプロフェッショナルコミュニティを構築するための方策について議論する．

司会：掛下哲郎（佐賀大学 工学系研究科 准教授）
【略歴】九州大学情報工学科卒業．同博士後期課程修了．工学博士．現在，佐賀大学知能情報システム学科准教授．2001年度より学科の教育システムの構築を推進し，2003年度にJABEE認定を受けた．2008年度より高度IT資格制度およびIT専門職大学院等を対象とする認証評価機関の構築に取り組んでいる．データベースおよびソフトウェア工学を専門とする．情報処理学会，電子情報通信学会等会員．

講演（1）：高度 IT 人材資格制度のビジョン／ 13：30 ～ 13：50

【講演概要】情報システムは現代社会の基本的なインフラとなっており，それを支える情報処理技術者の責務は大きい．わが国にはおよそ100万人の情報処理技術者がいるが，そのプロフェッションの確立を通じて，プロの技術者集団としてのプロフェッショナルコミュニティが形成されることが望ましい．コミュニティが自律的に質の向上を図ることによって，情報処理技術者に対する社会の期待に応え，その結果，情報処理技術者の社会的地位の向上することが狙いである．情報処理学会ITプロフェッショナル委員会では，コミュニティにおいてリーダー的な役割を果たす高度IT人材の育成に役立つ資格制度の構築を目指している．本講演では，そのビジョンについて述べる．

旭　寛治（（株）日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室）
【略歴】1971年（株）日立製作所入社．同社基本ソフトウェア本部長，ストレージソリューション本部長，（株）日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任．1999年本会理事，2005年副会長．ITプロフェッショナル委員長，高度IT人材資格検討WG座長，歴史特別委員会委員，コンピュータ博物館実行小委員会主査．本会フェロー．

講演（2）：高度 IT 資格の個人認証に関する情報処理学会モデル／ 13：50 ～ 14：10

【講演概要】IT人材の可視化の手段としては，ITSSのレベル1～4に対応した情報処理技術者試験がある．しかし，高度IT人材に該当するITSSレベル4については，試験で評価される知識に加えて，実務での総合的な能力発揮や責務遂行の実績，および技術の発展や後進の育成等のプロフェッショナルとしての実績が要求される．情報処理学会では，情報処理技術者試験の合格を前提に，実務での実績やプロフェッショナル活動を評価してITSSレベル4の基準を満たす高度IT人材を認証する資格制度を設計した．この資格制度は，国際的にも通用するよう，IFIPのIP3のガイドラインにも準拠するようにした．本講演では，この資格制度の概要を説明する．

芝田　晃（三菱電機（株）インフォメーションシステム事業推進本部 技術企画部 主管技師長）
【略歴】1978年3月東大情報工学修士課程修了．同年4月三菱電機（株）入社．汎用計算機のOS開発に従事．2001年より情報処理学会コンピュータ博物館実行小委員会委員．2004年度学会活動貢献賞受賞．2001年よりCMMIを用いたプロセス改善に従事．2005年CMMIリード・アプレイザ，CMMI入門インストラクタ資格取得．2008年度より情報処理学会高度IT人材資格検討WGメンバ，2009年度より同学会高度IT人材資格制度設計WG座長．

講演（3）：外部組織に対する高度 IT 資格認証業務の委任に関する情報処理学会モデル／ 14：10 ～ 14：30

【講演概要】我が国の情報系人材はIT提供側，IT利用側を合わせて103万人と推定されている．また，高度IT資格制度の対象となるITSSレベル4相当以上の情報系高度人材は約27万人である．このような規模の資格認証を実施するための協力体制を構築するためには，高度IT人材育成に関する各種の取り組みを連携させるエコシステムの枠組みが不可欠である．本講演では，高度IT資格の個人認証を目的とした企業の社内資格制度や既存の資格制度を対象とする認定モデルを提案する．大手企業等が本モデルに従って認定を取得することにより，高度IT資格の認証業務の一部を委任することができ，個別の資格制度の相互同等性および国際的通用性を第三者認定によって保証できる．また，大規模なエコシステムを効率的に構築できるため，情報系プロフェッショナルコミュニティを構築し，その中核メンバを明確化する上でも合理的である．

掛下哲郎（佐賀大学 工学系研究科 准教授）写真・略歴は，司会を参照．

パネル討論：情報系のプロフェッショナルコミュニティ構築に向けて／ 14：30 ～ 15：30

【討論概要】情情報系人材は情報基盤の構築・運営を通じて社会や組織の命を握っていると言っても過言ではない．そのため，情報系のプロフェッショナルコミュニティの構築が強く期待されている．情報分野では，情報処理学会のほかに，経済産業省・IPA，総務省，日本経団連，JISA，JUAS，日本技術士会等が情報系の高度な人材を育成するためにさまざまな取り組みを行っているが，互いの連携は必ずしも強くない．しかし，上述した規模のプロフェッショナルコミュニティを構築するためには，関連組織が互いに連携した協力体制を構築することが不可欠である．そのような協力体制を構築するためには，国際的に通用する高度IT資格制度およびそれを運営するためのさまざまな取り組み（各種試験制度，資格認定，CPD，プロフェッショナル貢献など）を含むエコシステムを関連組織と協力して構築・運営することが必要である．本パネル討論では，以上の問題意識に基づいて，関係者が自らの取り組みや，取り組みを通じて得られた知見を持ち寄り，相互に連携・寄与できるような体制を構築するための方策について議論する．

司　　会：旭　寛治（(株)日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室）　写真・略歴は，講演（1）を参照．
パネリスト：芝田　晃（三菱電機（株）インフォメーションシステム事業推進本部 技術企画部 主管技師長）
写真・略歴は，講演（2）を参照．
パネリスト：掛下哲郎（佐賀大学 工学系研究科 准教授）写真・略歴は，司会を参照．

パネリスト：安田　晃（ITプロ技術者機構 会長）
【略歴】約30年間に渡り，松下電工（株）にてセキュリティ・ビル管理・防災システムおよびIT機器等の企画・研究・設計・開発等に従事．（社）日本技術士会情報工学部会長，同理事，総務省CIO補佐官（兼）最高情報セキュリティアドバイザー，東北大学電気通信研究所客員教授等を歴任し，現在，ICT創研技術士事務所代表，特定非営利活動法人ITプロ技術者機構会長，環境省最高情報セキュリティアドバイザー，（株）イマーディオ・シニアフェロー．

パネリスト：阿草清滋（名古屋大学 情報科学研究科 教授）
【略歴】1970年京都大学工学部電気工学第二学科卒業．1972年同大学院工学研究科電気工学第二専攻修士課程修了．同博士課程へ進学．1974年より同情報工学助手．同講師，助教授を経て1989年より名古屋大学教授．工学博士．専門分野はソフトウェア工学，ソフトウェア開発方法論，知的開発環境，ソフトウェアデータベース，仕様化技法，再利用技法，マンマシンインターフェース．電子情報通信学会，日本ソフトウェア科学会，情報処理学会，IEEE，ACM各会員．

AITC先端IT活用推進コンソーシアム　［会場2F 蓬莱］
■ 先端ITの技術者育成と活用推進を目指して ～ AITCにおけるビジネスAR＆クラウド技術の活動ご紹介～

【セッション概要】「先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）」は，企業システムにおける先端ITの活用および先端ITエキスパート技術者の育成を目指し，2010年9月に設立されました．複数の企業が共同で調査・研究・検証・実証等を行うことで，先端IT適用の課題解決に寄与し，安定性や機密性等が求められる企業情報システムにおける先端ITの適用サイクルを早め，同時に先端ITに知見の深い技術者を育成し，先端IT活用による企業活動の価値向上に資することを目的に活動しています．また，安定性や機密性を求める社会基盤にも先端ITの活用が進むことを目指しています．今回は，AITCの各種活動の中から，①ビジネスをARで変革する領域をビジネスARと定義し，ビジネス分野におけるARの活用に取り組む「ビジネスAR研究部会」，②クラウド技術を企業内で利用するため実践的アプローチで検証に励む「クラウド・テクノロジー研究部会」を取り上げ，考察も含め活動の一端をご紹介いたします．

司会：田原春美（AITC副会長・運営委員会議長／ドリームIT21）
【略歴】日本アイ・ビー・エムにてVMシステムエンジニアやOS/2推進，ソフトウェアマーケティング等に従事．IBMが全世界で展開するEmerging Technology推進プログラムjStart（Jump Start）に日本代表として参加．Java，XML，Webサービス等の先進的利活用を牽引した．これまでに，OS/2，Java，EJBコンポーネント，XML，AITCの5コンソーシアムを立ち上げ，特にJava以降は，オープンな先進技術を業界横断で普及推進することに注力し，現在もライフワークとして企業の枠を超えた活動の場作りに取り組んでいる．

オープニング／ AITC概要紹介／ 13：30 ～ 13：35

田原春美（AITC副会長・運営委員会議長／ドリームIT21）　写真・略歴は，司会を参照．

講演（1）：AR ―小さくて大きな話／ 13：35 ～ 14：15

【講演概要】AR（Augmented Reality：強化現実）に関する事例を目にすることが増えている．スマートフォンなどのカメラ越しに商品や場所を見ると，リアルな3D画像がその場に立ち上がってくるという新しい表現が人々を惹き付けている．我々は，しかし，ARは単なる「新しい表現」にとどまらず，人々とICTの関係を大きく変える可能性を持つと考えている．ここでは，ARがどのような変化を我々にもらたすのか，その変化はどのような意義を持つのかについて，我々のビジョンを紹介する．

武理一郎（AITCビジネスAR研究部会サブリーダー／富士通／富士通研究所）
【略歴】富士通研究所，富士通にて，大量データの高速処理アルゴリズム，大規模システムのアーキテクチャと構築・運用の方法論，ICTをより身近にするためのUIとそれを支えるクラウドサービスに興味を持って研究開発を続けている．

講演（2）：「目玉おやじロボット」と「タイムトラベルナビ」／ 14：15 ～ 14：35

【講演概要】拡張現実（AR）を用いた観光支援，地域活性化の取組みについて2つ紹介する．（1）拡張現実で三次元空間を探索する新たなアトラクション「目玉おやじロボットを用いたデジタル妖怪探し」．（2）「手ぶら」で「懐かしさ」を感じる観光支援サービス「タイムトラベルナビ」は拡張現実で観光客の満足度を高め，観光地に人の流れを作るサービスを目指す．ビジネス適用を目指した取組みを踏まえ，CIOやIT関連の技術者・研究者に関連する「ARクリエーター」「ARマーケティング」の視点について解説する．

中川靖士（AITCビジネスAR研究部会サブリーダー／日本ユニシス）
【略歴】日本ユニシス（株）総合技術研究所先端技術ラボ．ユビキタス時代の社会プラットフォームの調査研究．現在は拡張現実（AR），スマートフォン，ソーシャルメディアなど使いやすいユーザインタフェースの研究開発に従事している．

AITC 活動紹介／ 14：35 ～ 14：50

田原春美（AITC副会長・運営委員会議長／ドリームIT21）　写真・略歴は，司会を参照．

講演（3）：クラウド― Mahout を使ったプロトタイプ／ 14：50 ～ 15：30

【講演概要】クテウド･テクノロジー研究部会では，MMLやレセプトデータを，実際にクラウド技術の1つであるHadoop上で使用して，データ抽出やリコメンデーションを行った．その手順と結果についてご報告する．

荒本道隆（AITCクラウド・テクノロジー研究部会リーダー／アドソル日進）
【略歴】AITCの前身であるXMLコンソーシアム時代から，XML・Webサービスを使った検証や実証実験に参加．現在はAITCにてクラウド・テクノロジー研究部会のリーダー．

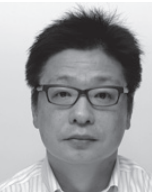
IPA/SEC 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリングセンター　［会場 2F 平安］
■ レジリエンスの高い IT システムを目指して
～多面的リスクに備えたしなやかな回復力を持つ IT システムを考える～

【セッション概要】2011年の東日本大震災以降，より強靭な社会インフラを構築しようとする取組みが進められつつあります．しかしながら，災害や外部からの攻撃・システム障害などの脅威に対して完璧なシステムは存在しません．極力強靱な社会システムを構築することはもちろんですが，万一壊れたときにも容易に復旧できるようなシステムを構築していくことも重要です．後者のような考え方は，レジリエンス（回復力，復元力，立ち直る力といった意味を表す語）と言われています．本セッションは，レジリエンスの高いITシステムに関する講演1つとパネル討論から構成されます．講演では，クラウドコンピューティングを活用して高いレジリエンスを有するITシステムを構築する方法について考察します．パネル討論では，幅広い関連分野のパネリストにより，レジリエンスの高いITシステムの構築に向けた課題と課題解決への取組みを中心に討議します．

司会：田丸喜一郎（（独）情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 統合系・組込み系プロジェクトサブリーダー）
【略歴】1981年慶應義塾大学工学研究科博士課程修了．工学博士．（株）東芝を経て，現在，（独）情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター統合系プロジェクト・組込み系プロジェクトサブリーダー．一般社団法人 組込みスキルマネージメント協会理事，東海大学専門職大学院組込み技術研究科客員教授，九州工業大学情報工学部客員教授などを務める．

講演：クラウドを活用した高回復力システム基盤の構築・利用／ 15：45 ～ 16：25

【講演概要】災害や大規模システム障害などの脅威に対して，ビジネスを必要なレベルで継続させるためには，情報システムのレジリエンス（迅速かつ柔軟な対応力・高回復力）が不可欠です．しかし，このような情報システム基盤を構築するためには，多額のIT投資が必要になります．このような状況の中で，クラウドコンピューティングを活用することにより，比較的安価に高回復力システム基盤を構築・利用できるようになることが期待されています．一方でシステムの安定性や情報セキュリティなど危惧される点も少なくありません．本講演では，高回復力システム基盤の構築や利用においてクラウドコンピューティングをどこまで活用できるのか，また，活用にあたっての留意点について考察します．



榎木千昭（慶應義塾大学 商学研究科 特別招聘教授）

【略歴】外資系コンピュータメーカを経て，監査法人系コンサルティング会社および監査法人にて情報セキュリティや事業継続等のリスクマネジメント，およびクラウドやアウトソーシング等のITコンサルティング業務に従事．現在，慶應義塾大学商学研究科特別招聘教授，内閣官房情報セキュリティセンター指導専門官，総務省行政管理局技術顧問，情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センターのITサービス継続ワーキンググループ主査等を務める．

パネル討論：レジリエンスの高い IT システムを目指して／ 16：25 ～ 17：45

【討論概要】元来，弾力性／復元力／回復力を意味する「レジリエンス」，昨今は「困難な状況にも適応できる能力」を意味する言葉としても幅広く使われています．社会基盤の重要な一角を担うITシステムには，従来からも高品質・高信頼が求められていますが，ITシステム自身の障害やその外部に起因するサービス中断による社会的影響が拡大傾向にある中，それらによる影響を低減する能力としてITシステムのレジリエンスが求められています．本パネルでは，レジリエントな社会・生活の実現のために「ITシステムは何ができるか，どうあるべきか」の観点から，ITシステムのレジリエンスを実現する技術，レジリエンスの高いITシステムの構築に向けた課題と課題解決への取組みを中心に討議します．

司　　会：田丸喜一郎（(独)情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 統合系・組込み系プロジェクトサブリーダー）写真・略歴は，司会を参照．

パネリスト：榎木千昭（慶應義塾大学 商学研究科 特別招聘教授）写真・略歴は，講演を参照．

パネリスト：加藤雅彦（(株)インターネットイニシアティブ セキュリティ情報統括室 シニアエンジニア）

【略歴】1995年豊橋技術科学大学大学院工学研究科知識情報工学専攻修了．修士（工学）．1998年（株）インターネットイニシアティブ入社．日本ネットワークセキュリティ協会幹事，調査研究部会長，日本クラウドセキュリティアライアンス幹事．

パネリスト：片平真史（(独)宇宙航空研究開発機構 情報・計算工学センター 技術領域リーダー）

【略歴】宇宙開発事業団（NASDA）入社後，人工衛星追跡管制，国際宇宙ステーション計画のソフトウェア安全・開発保証のNASAと基準作り，安全設計を担当し，その後，ロケット搭載装置開発に従事．マサチューセッツ工科大学 航空宇宙工学部 Complex Systems Research Lab（Prof. Nancy G. Leveson）招聘研究員．現在は，ソフトウェア独立検証および妥当性確認（IV&V），ソフトウェアプロセス改善，高信頼性RTOS開発・検証など，ソフトウェア安全・信頼性向上活動の領域リーダー．

パネリスト：丸山満彦（デロイトトーマツリスクサービス（株）取締役執行役員）

【略歴】有限責任監査法人トーマツに入所後，会計監査に従事．1998年より2000年までDeloitteのデトロイト事務所に勤務．製造業グループ他米国企業のシステム監査を実施．帰国後，リスクマネジメント，コンプライアンス，情報セキュリティ，個人保護情報関連の監査およびコンサルティングに従事．経済産業省の情報セキュリティ監査研究会，情報セキュリティ総合戦略策定委員会，個人情報保護法ガイドライン策定委員会他，国土交通省，厚生労働省の情報セキュリティ関連の委員会等の委員，日本情報処理開発協会ISMS技術専門部会等の委員を歴任．内閣官房情報セキュリティセンター情報セキュリティ指導官を兼務．

パネリスト：小西一有（ガートナージャパン（株）エグゼクティブ プログラム エグゼクティブパートナー）

【略歴】2006年，ガートナージャパンに入社．1988年，同志社大学工学部卒業後，山一證券，テレビ朝日，ソニー，ソニーコミュニケーションネットワークにてシステム企画，プロジェクト・マネジメントを担当．

JISA 情報サービス産業協会　［会場 2F 瑞雲］
■ JISA 情報技術マップの活用

【セッション概要】 JISAでは，技術動向を把握することを目的とした「情報技術マップ調査」を2004年から実施している．本調査は，情報技術の利用実績や今後の着手意向についてJISA会員企業のエンジニアへアンケートを行った結果から，各技術がどの方向に動き出そうとしているのかを明らかにしようとするものである．今回は，2011年度アンケート結果のデータを用いながら，本年度の技術トレンドを紹介する．また，情報技術マップがSI企業の研究開発マネジメントや人材育成，ユーザ企業との対話にどのように活用することができるかについて紹介する．

司会：大原道雄（一般社団法人情報サービス産業協会 企画調査部）
【略歴】 2000年東京理科大学理工学部数学科卒業．同年大手SIベンダ企業入社．システム開発部門でオープン系情報システム開発に従事．2008年より現職．「技術動向調査」「グリーンIT」などのテーマに取り組む．

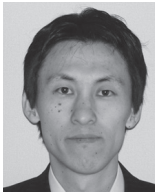
講演（1）：情報技術マップとは／ 15：45 ～ 16：15

【講演概要】 調査の概要説明と各分析の結果を報告する．

亀津　敦（（株）野村総合研究所 情報技術本部イノベーション開発部 主任研究員）
【略歴】 1996年東京大学経済学部卒業．精密機器メーカの情報システム部門・経営企画部門勤務を経て，2000年に野村総合研究所に入社．技術動向調査を行うITアナリストとして，企業内コラボレーション／ナレッジマネジメントや，次世代Web技術の進化とネットコミュニティの動向分析など．著書に『ITロードマップ2011年版』『Twitterの衝撃』（ともに共著）がある．2010年度より，JISA技術部会情報技術マップWG座長を務める．

講演（2）：ライフサイクルマップについて／ 16：15 ～ 16：55

【講演概要】 技術のライフサイクル進行度に関する分析であるライフサイクルマップについて説明する．特に本年度特徴的な進展があった技術について解説する．



安藤　洋（（株）さくらケーシーエス 事業推進部 リーダ）
【略歴】 1999年，（株）さくらケーシーエスに入社し，公共団体向けシステム開発に従事．現在は，事業推進部技術統括グループにて次世代IT技術を対象にした技術調査や適用支援活動に携わる．公共団体向けシステム開発の経験を活かし，ITシステム開発の生産性向上に関する企画立案および推進を担当．

講演（3）：新技術分析について／ 16：55 ～ 17：15

【講演概要】 先進的な技術について，現場エンジニアの関心状況を報告する．

山口陽平（みずほ情報総研（株）ビジネスコンサルティング部 コンサルタント）
【略歴】 2003年富士総合研究所（現みずほ情報総研）入社．社会保険関連の部署にて情報システムの設計・開発・運用管理業務を担当．2009年にビジネスコンサルティング部へ異動，IT基盤構築に関するコンサルティング業務や社員向けソーシャルメディアポリシーの策定業務に従事．

講演（4）：情報技術マップ活用方法／ 17：15 ～ 17：45

【講演概要】 情報技術マップ調査の利活用について，JISA会員各社でどのように活用しているのかを紹介する．

亀津　敦（（株）野村総合研究所 情報技術本部イノベーション開発部 主任研究員）　写真・略歴は，講演（1）を参照．

JEITA 電子情報技術産業協会　［会場 2F 蓬莱］
■個人が，社会が，企業が変わる！　その時 ICT の役割は？

【セッション概要】OPEN，FREE，SHARE，PUBLIC，ソーシャルメディア…世の中の大きなトレンドの変化を踏まえ，今いちど，ICT はどうあるべきか，世界をどう変えていくべきかを，参加者のみなさまと一緒に考えていきたいと思います．

司会：小林千早都（日本ユニシス（株）ICT サービス事業部 U-Cloud サービス企画部 チーフ・スペシャリスト）
【略歴】1965年京都市生まれ．1988年京都産業大学理学部数学科卒業．同年SEとして日本ユニシス（株）入社．以降，お客様のシステム開発や保守作業，システム提案，PCのマーケティング，企業プロモーション，eビジネス全般の企画･推進，ビジネスアライアンス推進業務，省庁や各種団体における渉外活動などを経て，現在クラウドビジネスに関わる企画業務に従事．JEITAのソリューションサービス事業委員会副委員長および次世代IT適用検討専門委員会委員長を務める．一方で，作詞家，歌人，俳人，ライターの顔も持つ．

パネル討論：個人が，社会が，企業が変わる！　その時 ICT の役割は？／ 15：45 ～ 17：45

司　　会：小林千早都（日本ユニシス（株）ICT サービス事業部 U-Cloud サービス企画部 チーフ・スペシャリスト）
写真・略歴は，司会を参照．

パネリスト：柴崎辰彦（富士通（株）SBM 変革推進室 シニアマネージャー）
【略歴】1987年立教大学卒業．専攻は，消費者心理学，産業心理学．同年富士通（株）に入社し，企業内ネットワークシステムや画像システムのマーケティングに従事．1996年より，同社のCRMビジネスの立ち上げに参画し，顧客サービスと顧客満足度（CS）の関係に強い関心を持つ．現在は，同社のソリューションビジネス全般の企画業務に従事し，次世代のソリューションビジネスの立ち上げに取り組む．

パネリスト：谷口浩一（日本アイ・ビー・エム（株）政策渉外 エグゼクティブ）
【略歴】1982年，日本アイ・ビー・エム（株）入社．東京サイエンティフィック・センターに配属後，生産技術，ロボット技術等の開発に従事．その後公共部門に移り，エンジニアとして開発プロジェクトを経験した後，ソリューション担当営業としてIBMのグローバルソリューションの展開にも従事．2008年より現職．JEITA　IT調達専門委員会委員長（2008年），次世代IT利活用検討専門委員会副委員長（2011年）を務める．

IT フォーラム展示［会場：5F 大ホール前］　9：30 ～ 17：30

ユニバーサルデザイン協創フォーラム
■見えなくても中身がわかる！！　バーコードを用いた視覚障碍者向け商品案内

【展示概要】相方が仕事のあいだ留守番しているとき，あるいはひとり暮らしの方，下宿している学生さん！　まとめ買いしてきた商品や，棚の奥にしまってあった缶詰め，いままさに空けようとしているペットボトルの中身，インスタントラーメンの味が，空ける前になんだか分かったら，生活が楽しくなると思いませんか．バーコードを読み取って，視覚に障碍のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめています，と聞いたら，「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから，ひとりで読むのは無理じゃないの?」と思いますよね．会場にデモソフトを用意していますので，視覚に障碍のある方もない方もぜひいらして体験してみてください．また，腕に自信のある方，ぜひフォーラムに参加して，ソフト開発にご協力ください．

フォーラム代表者：萩川友宏（筑波大学大学院システム情報工学研究科／学術情報メディアセンター）
【略歴】筑波大学自然学類卒業．学部在学中に福祉機器に関心を持ち，情報学部生に紛れハードウェアやアルゴリズムを学ぶ．大学院より情報分野に転身．2000年同大学院工学研究科修了．同年静岡大学情報学部に助手として着任し，情報家電の研究に着手．現在の興味は，手頃な情報保障のためのモデル作りとアクセシビリティ向上のための機器連携フレームワーク．情報処理学会福祉情報システムフォーラム世話人，映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会幹事．IEEE CE Japan Chapter若手論文賞（'00, '00, '01, '01, '03），IEEE Intl. Conf. on Consumer Elec. Outstanding Paper Award（'05 Poster）．

お食事処案内／ Restaurant Guide

1 キャラバンコーヒー

2 上野精養軒

3 つきじ植むら

4 サロン・ド・サロン (7F)

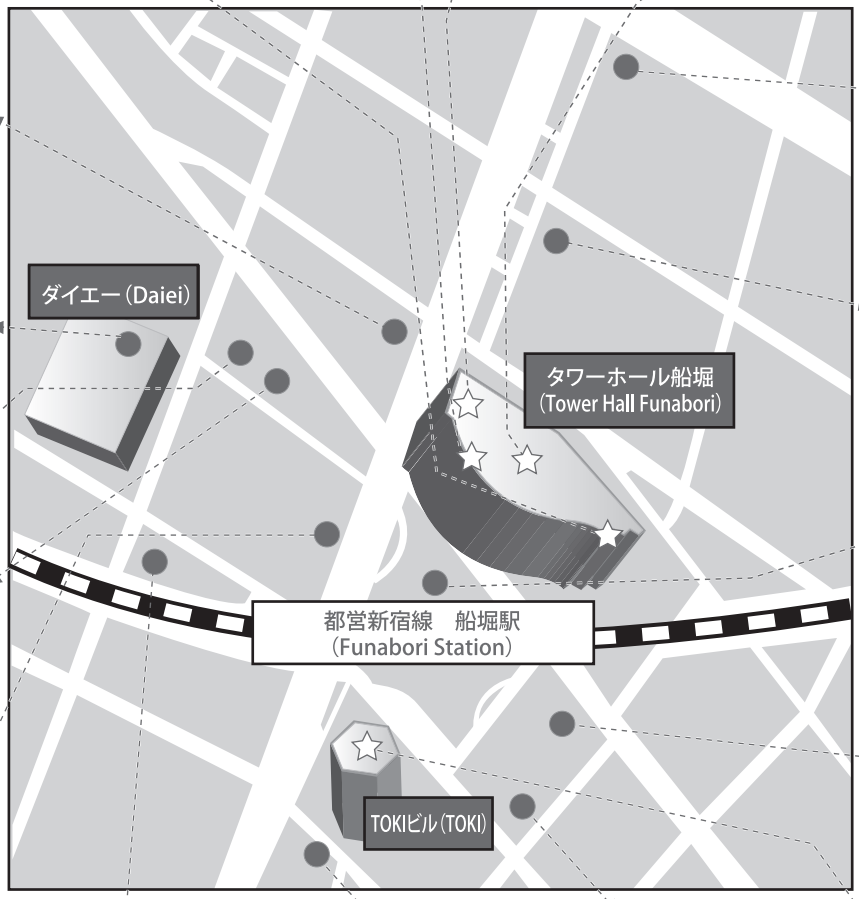
13 デニーズ

14 マクドナルド
15 ラーメン花菱

16 のほほん

17 平禄寿司

18 かまどや



25 ジョナサン

24 949

23 アザレー

22 バーミヤン

19 萃寿

20 とんかつ田

21 魚民

5 モスバーガー

12 コンパスポイント

6 ミスタードーナツ

7 すし　三崎丸

8 かるび家

9 ビックフット

10 とり樹亭

11 ポポラマーマ

※このご案内はあくまで情報のご提供を目的に作成しております．状況により実在と異なる場合もございますので，詳細は各施設へお問い合わせください．

	店名／Name	営業時間／Business Hours	定休日／Regular Holiday	種別／type	電話番号／Phone	備考／Remarks
1	キャラバンコーヒー Caravan Coffee	9:00~20:30	年中無休 No Holidays	喫茶･軽食 Coffee / Light Meal	03-5605-8559	タワーホール船堀　1階 Tower Hall Funabori　1F
2	上野精養軒 Ueno Seiyoken	11:00~21:00	年中無休 No Holidays	洋食 / Western	03-5676-2701	タワーホール船堀　1階 Tower Hall Funabori　1F
3	つきじ植むら旬泉坊　船堀店 Tsukiji Uemura	平 日/Weekday　11:00~15:00 17:00~22:00 日祝祭/Holidays　11:00~22:00	年中無休 No Holidays	和食／Japanese	03-5667-2633	タワーホール船堀　1階 Tower Hall Funabori　1F
4	サロン･ド･サロン（展望レストラン） Salon de Salon	11:00~21:00	年中無休 No Holidays	洋食 / Western	03-5676-3307	タワーホール船堀　7階 Tower Hall Funabori　7F
5	モスバーガー　船堀駅前店 Mos Burger	8:00~24:00	年中無休 No Holidays	ハンバーガー Hamburger	03-3688-9808	トキビル　1階 TOKI building , 1F
6	ミスタードーナツ　船堀駅前店 Mister Donut	7:00~24:00	年中無休 No Holidays	喫茶･ドーナツ Coffee / Donut	03-3688-3715	トキビル　1階 TOKI building , 1F
7	すし　三崎丸 Sushi Misakimaru	11:00~23:00	年中無休 No Holidays	回転寿司 Revolving Sushi bar	03-5605-6831	トキビル　1階 TOKI building , 1F
8	かるび家 Karubiya	11:00~23:00	年中無休 No Holidays	焼肉 Korean Barbecue	03-5605-9021	トキビル　2階 TOKI building , 2F
9	オリエンタルビックフット Oriental Big Foot	11:00~16:00 17:00~24:00	年中無休 No Holidays	無国籍料理 Multinational	03-5679-5788	トキビル　2階 TOKI building , 2F
10	とり樹亭 Torijutei	17:00~23:30	水曜日／Wednesday	和食／Japanese	03-3686-2273	トキビル　2階 TOKI building , 2F
11	ポポラマーマ Popolamama	11:00~23:00	年中無休 No Holidays	スパゲティ Italian	03-3869-0780	トキビル　2階 TOKI building , 2F
12	コンパスポイント Compass Point	11:30~14:30 18:00~23:30	月曜日／Monday	和洋食 Japanese & Western Restaurant	03-3877-2129	トキビル　2階 TOKI building , 2F
13	デニーズ Denny's	0:00~24:00	年中無休 No Holidays	ファミリーレストラン Coffee & Restaurant	03-5675-1138	
14	マクドナルド McDonald's	10:00~21:00	年中無休 No Holidays	ハンバーガー Hamburger	03-6663-7317	ダイエー内　1階 DAIEI , 1F
15	ラーメン花菱 Ramen hanabishi	10:00~21:00	年中無休 No Holidays	ラーメン Ramen noodles	03-3675-8166	ダイエー内　1階 DAIEI , 1F
16	のほほん Nohohon	7:00~21:00	年中無休 No Holidays	韓国料理 Korean Restaurant	03-3869-5334	
17	平録寿司　船堀駅前店 Heiroku-Sushi	11:00~22:00	年中無休 No Holidays	回転寿司 Revolving Sushi bar	03-3877-9197	
18	かまどや　船堀店 Kamadoya	11:00~4:30 土日祝前日2:30まで	年中無休 No Holidays	和食／Japanese	03-5696-0951	
19	萃寿 Suiyosi	11:00~22:00	年中無休 No Holidays	中華 Chinese Restaurant	03-3877-3715	
20	とんかつ　田 Tonkatu Den	11:30~14:30 17:00~21:30	年中無休 No Holidays	とんかつ (Breaded) Pork Cutlet	03-5676-7555	
21	魚民 Uotami	17:00~5:00	年中無休 No Holidays	和食／Japanese	03-3877-3788	
22	バーミヤン Bamiyan	10:00~5:00	年中無休 No Holidays	中華 Chinese Restaurant	03-5667-3248	
23	アザレー AZALEE	8:00~20:00	年中無休 No Holidays	喫茶 Café & Bakery		船堀駅 Funabori station
24	949（クシキュー） Kushikyu	17:00~4:00	年中無休 No Holidays	串焼き Skewered food	03-3869-0289	
25	ジョナサン Jonathan's	0:00~24:00	年中無休 No Holidays	ファミリーレストラン Coffee & Restaurant	03-5696-7384	

この案内と実態は一致しない場合があります. ／ This guide and actual condition may not be in agreement.

事前予約申込・大会情報詳細はこちら

情報処理学会第74回全国大会　検索

事前予約申込締切：2012年2/17(金)

【共　催】 国立大学法人 名古屋工業大学　【後　援】 愛知県 Aichi Prefectural Government

http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/74kai/

情報処理学会 第74回全国大会

会期 2012/3/6(火)▶8(木)
会場 名古屋工業大学 御器所キャンパス

日常のICT・非日常のICT
INFORMATION AND COMMUNICATION TECHNOLOGY

1 招待講演企画 聴講参加無料 ※聴講参加申込が必要です

6日(火) 13:30-14:45 【第1イベント会場 51号館1F 5111】

Engineering coordinated behavior across socio-economic systems

David C Parkes
Harvard University School of Engineering and Applied Science Professor

2 招待講演企画 聴講参加無料 ※聴講参加申込が必要です

7日(水) 14:15-15:15 【第1イベント会場 51号館1F 5111】

Reducing the risk in software engineering products and services

John Walz
IEEE-Computer Society President

3 招待講演企画 聴講参加無料 ※聴講参加申込が必要です

8日(木) 13:15-14:15 【第1イベント会場 51号館1F 5111】

日常のITS、非日常のITS

渡邉　浩之
ITS Japan 会長

大会聴講参加費・講演論文集代・懇親会参加費(税込)

聴講参加費	費用
大会イベント企画のみ聴講参加	無料
大会共通聴講参加(正会員)	3,000円
大会共通聴講参加(正会員)DVD付	8,000円
大会共通聴講参加(一般非会員)	6,000円
大会共通聴講参加(学生)*会員/非会員問わず	無料

講演論文集代	予約価格(2/17迄)	定価
セット(DVD付)	57,000円	61,000円
分冊	12,000円	13,000円
DVDのみ(個人)	8,000円	8,000円
DVDのみ(法人)	55,000円	55,000円

*セット(DVD付)と分冊は個人、法人ともに同額です。
*DVDは学生限定・大会会場限定で学割会場販売(4,000円)いただけます。

*「大会イベント企画のみ聴講参加」は、招待講演企画・イベント企画・各種展示のみ聴講参加可能です(一般セッション・学生セッションの聴講参加はできません)。
*「大会共通聴講参加」は、一般セッション・学生セッションを含む大会全てのセッション聴講参加が可能です。

イベント企画 聴講参加無料 ※聴講参加申込が必要です

6日(火)

第1イベント会場 51号館1F 5111
- 情報処理技術遺産認定式
- 私の詩と真実
- サスティナブルな次世代社会情報メカニズム

第2イベント会場 52・53号館1F 5211
- 実世界自然言語処理への挑戦
- エクサスケールコンピューティングへ向けたソフトウェア技術開発ロードマップ

第3イベント会場 52・53号館1F 5212
- 教育ビジョン2011:変わらなくちゃ、情報処理学会
- 教育活動は「つけ足し」でいいのか？ ～情報処理学会における教育活動～

7日(水)

第1イベント会場 51号館1F 5111
- 大学認証基盤の運用経験から見えてきた効用と課題
- 大会挨拶・各種表彰式・認証式
- デジタルプラクティス論文を書いてよかった!

第2イベント会場 52・53号館1F 5211
- 論文必勝法 ～傾向と対策～
- コンピュータ将棋はまだ止まらない

第3イベント会場 52・53号館1F 5212
- 次世代eラーニング研究シンポジウム
- クラウドコンピューティングがもたらす遠隔教育の革新

8日(木)

第1イベント会場 51号館1F 5111
- 震災復興デザインコンテスト
- 多言語・マルチユース時代のドキュメント作成技術システム

第2イベント会場 52・53号館1F 5211
- スパコンアプリ開発最前線
- 私的勉強会と学会の未来

第3イベント会場 52・53号館1F 5212
- 産業界からの学会活動活性化に向けて
～コンシューマ・デバイス&システム研究会の取り組みと期待される今後の活動～

一般・学生セッション【聴講参加有料】※聴講参加申込が必要です

6日(火)～8日(木)

約1,500件の研究成果発表があります。大会3日間でおよそ30会場を使用して、190あまりのセッションが組まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

懇親会【有料】※参加申込が必要です

7日(水) 18:15～20:15　会場:名古屋ビール園 浩養園

昭和6年創業、日本最古のビヤガーデン浩養園【こうようえん】で、大会参加者の皆様の親睦を是非深めてください。

問合せ先：一般社団法人情報処理学会 事業部門　101-0062東京都千代田区神田駿河台1-5化学会館4F　E-mail: jigyo@ipsj.or.jp　Tel(03)3518-8373　Fax(03)3518-8375

Gold Sponsors

株式会社とめ研究所
株式会社メガチップス
有限会社来栖川電算
ヤフー株式会社
株式会社エデックリンセイシステム
株式会社ディー・エヌ・エー

Standard Sponsors

株式会社知能情報システム
アイシン・インフォテックス株式会社
株式会社マクシス・シントー
富士機械製造株式会社
名古屋工業大学 梅崎研究室
株式会社トヨタデジタルクルーズ
共立出版株式会社
グリー株式会社
ツーエス・テクノロジーズ株式会社
株式会社デンソー
有限会社ホーリーマイン
合同会社3Dragons
株式会社メイテツコム

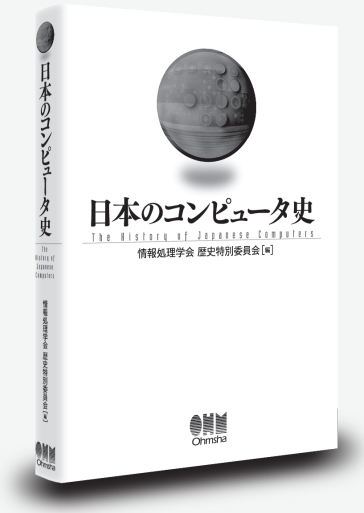
日本のコンピュータ・情報処理の発展を伝える正史 遂に刊行!!

日本のコンピュータ史

The History of Japanese Computers

情報処理学会歴史特別委員会 編

A5判・388頁　定価7980円(本体7600円+税)



1980年から2000年の20年間の日本のコンピュータの歴史を情報処理学会歴史特別委員会で検証してまとめたものです。この時代は、パソコンとインターネットの時代へとITが大きく変貌と遂げた激変の時代であり、その最前線で関わった人たちによって執筆されています。

1960年以前の歴史をまとめた「日本のコンピュータの歴史」と1960年から1980年をまとめた「日本のコンピュータ発達史」をCD-ROMに収録して添付しています。

【編集委員会】

委員長：発田　弘(前沖電気工業株式会社)
幹　事：松永俊雄(東京工科大学名誉教授)
委　員：旭　寛治(前株式会社日立製作所)／鵜飼直哉(前富士通株式会社)／浦城恒雄(東京工科大学名誉教授)／坂井修一(東京大学)／前島正裕(国立科学博物館)／山田昭彦(コンピュータシステム＆メディア研究所)／和田英一(東京大学名誉教授)

【目　次】

第1章　日本のコンピュータ史概論(1980年まで)
第2章　日本のコンピュータ史概論(1980年から2000年まで)
第3章　日本のコンピュータの発展　汎用大型コンピュータ(メインフレーム)／オフィスコンピュータ／パーソナルコンピュータ／スーパーコンピュータ／ワークステーション・サーバ／日本語ワードプロセッサ(ワードプロセッサ)／周辺機器／専用端末装置システム／ソフトウェア／文字コード／大学など研究機関での活動
第4章　ネットワーク社会への展開　ネットワーク環境の変遷／ OSIの始まりと終焉／インターネット／モバイルコミュニケーション／電子商取引
第5章　情報技術分野の主要な研究開発プロジェクト　概要／第五世代コンピュータ／科学技術用高速計算システム／リアルワールド・コンピューティング／ TRONプロジェクト／ DIPS
第6章　その後の進展と今後の展望
年表・年譜

「日本のコンピュータ史」購入申込書

送付先■〒101-0062　千代田区神田駿河台 1-5　化学会館 4F　一般社団法人 情報処理学会出版担当
Tel : (03)3518-8371（部門直通）　Fax : (03)3518-8375　E-mail : editj@ipsj.or.jp

会員価格■(送料・税込み) 7,182円　＊学会間の相互協力により，情報処理学会，電気学会，照明学会，電子情報通信学会，映像情報メディア学会の５学会の個人・法人会員の方は，会員価格で購入できます.

---------- 記入欄 ----------

◎所属学会

学会名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　会員 No.：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◎購入申込冊数

購入申込冊数 ＿＿＿＿ 冊　　合計金額 ＿＿＿＿＿＿ 円

◎お支払い方法　下記の該当お支払い方法にチェック☑し，見積・納品・請求書の希望枚数をご記入ください.

●お支払い方法：□銀行　□郵便振替　□現金持参

●見積・納品・請求書（3枚綴り）：＿＿ 通 希望　請求書宛先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◎送付先〈＊は必須事項〉

ご氏名*：(漢字) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ (カナ) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

送付区分*：□自宅　□勤務先

ご住所*：〒 ＿＿＿＿

会社／学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　所属：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Tel*：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　Fax：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail*：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◉通信欄（要望事項等あればご記入ください）

情報処理学会の会員になりませんか！

www.ipsj.or.jp

新規会員募集中

一般社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

■活動の概要

○機関誌（「情報処理」「情報処理学会論文誌」）の発行
○各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー他）
○情報処理教育活動
○国際交流
○標準化活動
○出版活動

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員
正 会 員：当学会の中心的会員で、IT 分野に携わっているかまたは興味のある個人
学生会員：学校に在学中の個人
名誉会員：当学会の活動において特別な功績のあった個人

賛助会員
当学会の活動をサポートする法人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

2011年

1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます。
特集：バーチャルリアリティとインタラクティブアートの相互作用による発展／全国技術系勉強会マップ／クラウドを支えるデータストレージ技術／時間とコンピュータ／アナログテレビ放送の終焉／夏休み工作のためのフィジカルコンピューティング／ソフトウェアパターン／新しいインターネットがやってくる／東日本大震災　危機発生時の対応について考える／高度IT人材育成の軌跡／食とコンピューティング／未踏ユースから育ったタレントたち、他

2 実務の現場で IT を実践する皆様に向けた論文誌「デジタルプラクティス」が年 4 回お手元に届きます。
特集：XML の勘所（1 月刊行）／世界に飛び出す日本のソフトウェア（4 月刊行）／コンタクトセンタ（7 月刊行）／事業に活きる我が国発の標準化（10 月刊行）

3 電子図書館（BookPark／情報学広場）で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

4 「連続セミナー」に会員価格（7,000 円お得）で参加できます。
時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2011 年度は「コンシューマが切り拓くデジタル化社会の新しい潮流」をテーマに、6 回の開催があります。

ホットトピックス

5 ホットトピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。
インターネット、E ビジネス、セキュリティ、ユビキタス・モバイル・情報家電・組込み、ディベンダブルシステム、低消費電力化、リコンフィギャラブルプロセッサ、グリッド、UML・オブジェクト指向・アスペクト指向、エージェント、セマンティックウェブ・XML・データマイニング、マルチメディア、エンタテイメント・バーチャルリアリティ、e-ラーニング、バイオインフォマティクス、バイオメトリクス、量子コンピューティング・DNA コンピューティング、進化的計算・複雑系、ITS、金融工学・経済物理

6 出版図書が会員割引で購入できます。
IT Text シリーズ、英文図書 Advanced Information Technology シリーズ、日本のコンピュータ史等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。

お問い合わせは、
一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門
〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台 1-5　化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370　Fax.(03)3518-8375　mem@ipsj.or.jp

東日本大震災 募金のお願い

昨年の2011年3月11に起きました東日本大震災において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。
当会では「東日本大震災復興支援運営委員会」を設置し復興支援活動を推進しております。
今回、被災地支援のためソフトウエアジャパン2012会場受付（5F大ホール前）に募金箱を設けております。
皆様からのご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。
皆様からお預かりした募金は、日本赤十字社を通じて被災地へお届けいたします。

一般社団法人 情報処理学会 東日本大震災復興支援運営委員会
委員長　寺中　勝美

「ソフトウエアジャパン2012」企画運営

一般社団法人 情報処理学会 技術応用運営委員会

委 員 長	丸山　宏（情報・システム研究機構統計数理研究所）
副委員長	谷口倫一郎（九州大学）
幹　事	黒橋　禎夫（京都大学）
委　員	奥乃　博（京都大学）
	落谷　亮（(株)富士通研究所）
	河口　信夫（名古屋大学）
	串田　高幸（日本アイ・ビー・エム（株））
	西　直樹（日本電気(株)）
	山室　雅司（日本電信電話（株））
	横田　治夫（東京工業大学）
	吉野　松樹（(株）日立製作所）

一般社団法人 情報処理学会 ソフトウエアジャパン2012実行委員会

委 員 長	谷口倫一郎（九州大学）
副委員長	黒橋　禎夫（京都大学）
委　員	諏訪　良武（ワクコンサルティング(株)）〔サービスサイエンスフォーラム〕
	秡川　友宏（筑波大学）〔ユニバーサルデザイン協創フォーラム〕
	安信千津子（(株)日立製作所）〔ITダイバーシティフォーラム〕
	掛下　哲郎（佐賀大学）〔高度IT人材育成フォーラム〕
	宮崎　義文（イー・パフォーマンス・ネクスト）〔コンタクトセンターフォーラム〕

ソフトウエアジャパン2012 ITフォーラムセッション企画協力

独立行政法人情報処理推進機構 ソフトウエア・エンジニアリングセンター
一般社団法人情報サービス産業協会
社団法人日本情報システム・ユーザ協会
一般社団法人電子情報技術産業協会
先端IT活用推進コンソーシアム
独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

ソフトウエアジャパン2012の開催にあたりまして，本会議の開催趣旨にご賛同をいただきましたスポンサー様，サポーター様ならびにご協賛，ご後援をいただきました関係省庁，団体様，誠にありがとうございました．
ここに厚くお礼申し上げます．

一般社団法人 情報処理学会

SUPPORTERS

一般社団法人情報サービス産業協会

東京工科大学

株式会社アイロベックス

株式会社日立ソリューションズ

株式会社日立システムズ

株式会社NTC

鉄道情報システム株式会社

株式会社日立情報制御ソリューションズ

国立大学法人京都大学 情報学研究科

ニフティ株式会社

富士フイルムソフトウエア株式会社

南山大学 数理情報研究センター

三菱電機インフォメーションズ株式会社

英文校正・校閲エナゴ

慶應義塾大学 環境情報学部

NTTアドバンステクノロジ株式会社

NTTソフトウェア株式会社

ワクコンサルティング株式会社

オープンリソース株式会社

オープンワークス株式会社

日本電信電話株式会社

株式会社構造計画研究所

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

株式会社リコー

財団法人九州先端科学技術研究所

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

九州大学大学院システム情報科学研究院

三菱電機情報ネットワーク株式会社

三菱電機株式会社

ガートナー ジャパン株式会社

メディア協賛

株式会社リックテレコム
「月刊コンピューターテレフォニー」

ITmedia エグゼクティブ

日経BP ITpro

記載の名称・ロゴは，各社・団体の商標です．掲載は申込み順です．

一般社団法人 情報処理学会　〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F　E-mail: jigyo@ipsj.or.jp　Tel.(03)3518-8373　Fax.(03)3518-8375